

2

0

1

5

KIT同窓会誌

平成27年 No.9

工

織

京都工芸繊維大学同窓会

■ 会 告

平成27年度の総会を、下記のとおり開催します。会員諸兄姉の多数のご参集をお願いします。
同窓生はじめ、クラブ・同好会など関係者お誘い合せのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

記

○ 京都工芸繊維大学同窓会 平成27年度定期総会

日 時 平成27年6月27日(土) 午後4時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都 東館 2階 「山城の間(西)」
京都市東山区三条けあげ 電話：075-771-7111

議 案 1. 同窓会の一般社団法人化について
2. 平成26年度事業報告
3. 平成26年度決算報告
4. 平成26年度会計監査報告
5. 平成27年度事業計画(案)
6. 平成27年度予算(案)
7. その他

報告事項 理事会報告

○ 京都工芸繊維大学同窓会恒例の懇親会を下記により開催します。

記

日 時 平成27年6月27日(土) 午後6時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都 東館 2階 「山城の間(東)」

会 費 10,000円(ただし、学生会員は3,000円を当日受付にてお支払いください。)
「同窓生によるミニコンサート」を開演します。奮って参加ください!

〈参加申込みについて〉

総会、懇親会への多数の参加をお待ちしております。

参加される方は、別添郵便はがき(平成27年度KIT同窓会定期総会・懇親会 出欠のご回答)の「出席」に○印をお付けの上、6月12日(金)までに必着するように投函をお願いします。直接同窓会事務局にFAX又はメールによりご連絡下さっても結構です。

会長就任のご挨拶 4つの委員会を継承し、同窓会活動の活性化を図る



京都工芸繊維大学同窓会
会長 中村 淳
(建築工芸学科 昭和32年卒)

この度、平成26年6月28日のKIT同窓会総会で、任期満了の三好会長の後を継いで三代目の会長の任に就くこととなり、KIT全国24,000名余の会員を擁するKIT同窓会の会長という大役を仰せつかりました。不敏不才、その上未熟な私ではありますが、ここは「緊禪一番」誠心誠意努力致す覚悟でございます。

ご存知の通り、三好会長は4つの委員会を立ち上げられました。いずれも同窓会の活性化、母校の支援に関わる事業であります。私は、三好会長の意を受け継いで、4名の副会長と共に確実な成果を上げるべく努力致します。

KIT同窓会の当面の課題は、諸活動の原資となる資金不足です。この不足をきたす要因は、会員の年会費納付率の低さにあります。ちなみに平成25年度の年会費納付額は600万余円に留まり、年会費3,000円に会員総数をかけた総額の8.3%です。

この問題に取り組むのが、4委員会の一つ「大学教育研究の支援充実・年会費納入率アップ」委員会です。委員長の藤澤寿郎副会長は、11月29日に開催された東海支部総会では受付席に座り、会費未納者から会費を徴収されました。まだ具体策を申し上げる段階ではありませんが、会員皆様との対話を通してご理解を賜り、会費納付率の向上を目指す所存です。

事業創設委員会は谷垣弘明副会長が委員長となり、適切な事業を行い、事業収益を得ることで同窓会の原資を増大させて、母校支援の増大を図ります。そのため市場調査・事業収支を踏まえて、事業利益で資金の拡充を図ります。これに加えて事業資金を確保するためにも、会費納付額の増大が求められます。

事業着手の前提として、KIT同窓会の法人化が求められます。この問題は、総務委員会の中に法人化検討委員会を設けて検討を開始し、一般社団法人の定款案を作成して、法人化のメリット、デメリットを掌握して諸事業に備えます。法人化の時期については、まず総務委員会で定款を固めて理事会に諮り、早くても平成27年6月の総会で承認を得た後、一般社団法人となります。

広報委員会は、杉本一郎副会長が委員長となり、KIT同窓会誌「工織」編集・発行、講演会の開催、IT活用の広報としてKIT同窓会HPのタイムリーな更新、OBへの情報発信などに取り組んでいます。同窓会のHPは現在、京都工芸繊維大学HPに組み込まれていますが、HPのサーバーを分けて独自のHPを開設することで、全国の会員と双方向の情報交換を行い、年一回の会誌に加えて日常的な交流を深めることを計画しています。

全国の会員皆様の福祉に関わる支部・部会の創設は、これまでに6支部、8部会が設立されました。昨年度、KIT同窓会名簿が発行され、個人情報開示の問題が解消されましたので、全国各地の支部設立の要請に応える体制ができました。

支部活性化委員会の委員長は小角亨副会長が担当し、全国に展開している衣笠同窓会支部の支部長にKIT支部化（旧松ヶ崎と衣笠会との一体化）への取り組みを依頼しています。

総務委員会は、母校と同窓会の接点に設けられた組織です。本年の委員長は副学長の森本一成先生です。この委員会では、KIT同窓会の必要な事項を検討します。この委員会は会長の諮問機関であり、諮問を受けて正副会長会で協議し、重要な議案については理事会・総会で審議し、承認を得て実施します。

いま母校は、文部科学省に業績が高く評価され、4月には国立大学機能強化12校に選ばれ、9月にはスーパーグローバル大学37校に入り、今後10年間、支援金を得て活動が展開されます。この快挙にエールを送りましょう。

私は、4年前の副会長就任挨拶で「KIT同窓会は母校の応援団」と申し上げました。これからは応援団長として、皆様と共に交流と親睦を深め、母校の発展に寄与する活動を展開します。

最後に、皆様方には積極的に同窓会活動に参加頂き、今後とも皆様方の絶大なるご支援、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

KIT 同窓会会長退任のご挨拶 組織の強靱化を願って



京都工芸繊維大学同窓会

顧問 **三好 明**

(繊維化学科 昭和31年卒)

京都工芸繊維大学（KIT）同窓会の皆様には、益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。平素より同窓会の活性化、改革のために、新企画のご提案とその実施にご尽力を賜り心より御礼申し上げます。私は皆様のご推挙により平成24年6月 KIT 同窓会長の任に就き、平成26年6月任期満了により退任致しました。在任中は、古山学長先生をはじめ大学各位、また同窓会の皆様様に御指導、御鞭撻を賜り、大変お世話に預かりました。厚く御礼申し上げます。

この2年を総括し、課題を見出すことでご挨拶に代えたいと思います。

1. 大学改革の着実な進展

昨年師走に衆議院選挙がありました。消費税増税、円高、TPP、原発、高齢化また近隣諸国との摩擦等々難問が山積しています。一方、青色発光ダイオードのノーベル賞受賞やはやぶさ2号の発射等の快挙がありました。やはり日本再生は科学技術に依存して進める他ないように思われます。わが大学においても大学が抱える重要課題を鮮明にし、歴史的使命を果たす力強い企画が着実に実施されています。大学の内では大学の特徴を伸ばす教育改革を行い、大学の外ではコミュニティ、イノベーション、グローバルイノベーションを核として進めています。

2. KIT 同窓会のミッション

同窓会のミッションは同窓会会員への福祉事業と母校との並走・支援です。このミッションを遂行するためには、同窓会のウイングをいかに広げてゆくかが大切なこととなります。同窓会には高度な経営能力や実務経験、各種の資格を持った方々が大勢おられます。同窓会活動を推進する上で、眠っている同窓会員の無形資産を結集すれば大きなエネルギーとなることは間違いありません。

3. 同窓会のシンクタンク4つの委員会の創設

従来最高議決機関である総会は年2回レベルの開催しかありません。大学、国内、世界の激しい変化に即した同窓会の意思決定の仕組みを見直すことが必要です。改革にはスピードが欠かせません。4つの委員会は平成24年度から新しく創設した委員会です。KIT 同窓会の基本的な問題を4つ取り上げ、副会長を委員長とし委員を募り、それぞれの理念や施策その実施を検討するシンクタンクです。4つの委員会の取り上げた問題や課題を次に示します。

(1) 支部・部会の統合と同窓会名簿の編纂

地域支部は6支部、部会は8部会の統合を進めることができました。平成25年度に衣笠同窓会全国支部長会議を開催し、統合について審議した結果会員情報が予想以上に不足していることが明らかになりました。KIT 同窓会会員名簿を10年ぶりに編纂することになりました。

(2) 広報の充実と IT 化

KIT 同窓会誌、支部長への広報、広報の IT 化について、基本指針を出しました。特に広報の IT 化については、KIT 同窓会の基本指針を HP を通じて提示しました。これから公に情報発信すべき同窓会活動情報をリアルタイムに HP で伝えるようにしていきます。各支部部会の創設・認知も増え、これら部門との情報ネット構築も重要なコミュニティの一環であります。一方、限定の交流システムを組み入れることも検討していきます。

(3) 新事業の調査・創設委員会

幾つかのオプションが得られていますが具体化するには同窓会が人格（法人格）を持つ必要があります。KIT 同窓会の法人化について検討の必要性があります。

(4) 年会費納入率アップ・大学への支援充実

特定部会での年会費納入率アップの活動がありましたが、効果は限定的でした。KIT 同窓会の現在の運用資金は、同体質の理工系大学同窓会と比べてすくなく、新たな視点で抜本的な仕組みの策定が今後の課題です。大学のミッション達成のための支援他、1千万円強の寄付をしました。

4. 法人化の検討

法人化に詳しいスペシャリストが参画した法人化作業委員会を新規に発足させ、法人化の可否を検討しました。引続き正副会長会議で最終判断を下すこととなります。

同窓会は装備を整え高山に登り始めました。同窓会の高山を最適なルート選択を誤ることなくスムーズに登ることが必要です。中村新会長は今から十数年前に海外の未踏の高山を征服しておられ、必ず登頂に成功されると信じています。

KIT 会長退任後は KIT 同窓会の一員として微力ではございますが、KIT 同窓会のために汗をかく所存です。母校と KIT 同窓会の益々の発展を祈念いたしまして退任の挨拶といたします。有難うございました。

キャンパス全体のグローバル化を目指して



京都工芸繊維大学
学長 古山 正雄

不断の大学改革真っ最中にあった昨年11月、私自身におきましても、身の引き締まる出来事がありました。それは、任期満了に伴う次期学長候補者の選考です。学長に就任して以来、京都工芸繊維大学を世界に向けてアピールするために実施してきた数々の大学改革を途中で投げ出すことはできない強い気持ちと今までの実績が評価され、『再任』ということで、平成30年3月末まで再び学長を務めさせていただくこととなりました。

今までの様々な改革が実を結び、京都工芸繊維大学が評価されましたのは、教員、学生、事務職員、そして何より卒業生の方々のおかげです。ここに、深く感謝の意を表する次第です。今後とも、京都工芸繊維大学への愛校心を引き続きお持ちいただき、大学の特色を活かした世界を身近に感じる大学づくりにご注目ください。

さて、松ヶ崎から世界へということで『グローバル化』を進めておりますが、昨年の大きな出来事としましては、文部科学省が実施する我が国の高等教育の国際競争力の向上を目的に、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学を支援する『スーパーグローバル大学創成支援』事業に申請し、グローバル化牽引型（タイプB）に採択されました。このプログラムは、今後10年間にわたり、キャンパス全体のグローバル化を図るという構想です。特に重要なのは、『TECH LEADER』（国際的高度技術者）という人材像を高く掲げて人材育成を行っていくことと国際化の舞台でリーダーたりえる人材や技術者を育成することです。また、学生、大学院生のみならず事務職員、若手教員、まさに大学が一丸となりキャンパスをあげて、グローバル化に取り組む大がかりな計画となっています。さらに、その成果は本学だけにとどまるものではありません。身近な地元自治体をは

じめとして、卒業生を通じてのグローバル化による企業の海外進出等に寄与していくことでしょう。そのようなことが可能となる場として、『テックサロン』の開設も考えています。

また、これ以外の事業についても引き続き実行中です。COC（Center Of Community）、COI（Center Of Innovation）、COG（Center Of Global）ということで、本学では地元自治体との連携、京阪神の産業界との連携、さらに海外との連携等事業を意味します。COCにおいては、地域に根ざした実践的な教育研究活動を更に発展させていくCOC推進拠点として、地域貢献の中核を担うのに十分な機能を整えた建物を新たに整備しました。昨年10月末には、文部科学省・京都府・京都市をはじめとしたCOC事業で連携する自治体からの関係者及び工事関係者等の列席のもと、15号館（COCプラザ棟）竣工記念式典を開催しました。COGにおいては、ユニット招致事業（世界的に有名な大学から講座単位で本学に招致し、共同して教育研究に携わっていただく事業）を通して、ヨーロッパを中心に、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブアート、パリ大学ソルボンヌ校、チューリッヒのETHとの交流が始まりました。また、外国にも拠点を形成予定です。現在タイのチェンマイ大学において本学の海外オフィスを借用することを協議しております。

国内においても、東京事務所を開設しました。事務所は青山通りに面し、青山学院大学の向かい側にあり、地下鉄の表参道駅から徒歩で8分ほどのところにあります。就職活動の拠点や、文部科学省をはじめ、各省庁への積極的アプローチなどに有効に活用されることでしょう。

今年度で第二期中期目標期間が終了となりますが、第三期中期目標期間に向けての準備期間として重要な1年となることでしょう。本学の教育研究を世界に向けて発信し、京都工芸繊維大学の存在感をアピールしていこうと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

KIT 同窓会 活性化委員長として

KIT 同窓会副会長

小 角 亨

(建築工芸学科 昭和36年卒)



永らく工芸学部と繊維学部に分かれていた同窓会は、本城博一元会長様をはじめ諸先輩方の御尽力により、全学的に合併され、KIT 同窓会となりました。

以来4年余り、同窓会のKIT化は、献身的な活動に支えられて、徐々に組織化され、交流の場を拡げつつあります。昨今は、関東支部や中部支部及び近畿支部など、それぞれ100名規模の総会を大学側の温かい応援も得て開催することが出来るようになりました。

しかし、このような組織化が比較的容易に出来たのも、既にある衣笠同窓会の強力なネットワークが連綿とあったればこそであり、工芸学部出身の私としましては、少々忸怩たる思いがあります。しかし、この縁をたよりに、他の地域もKIT化の波を拡げていくつもりです。

今後とも、滋賀県をはじめ、各地に支部や、趣味を中心にした部会などが結成されるでしょうが、そのような芽に、水を供給するか、もしくは各地に埋もれていた芽を探し出して、大きく育ててゆくことも、活性化委員会の役割だと思っています。

一方、本学は古都にある小さな国立大学として、近年目ざましい活躍をしていることは、マスコミ等を通じての報道で、諸兄の御承知の通りです。文部科学省の専門研究部門に対して与えられる研究助成費等では、旧帝大に悟して、堂々13校の中にも選ばれるという快挙をなして、今では上位グループの中でも確固とした地歩をきずいています。

しかし、地方の国立大学の厳しい経済状況に手足をしばられて、学校運営には、並々ならぬ御苦労もあるに違いありません。私が、同窓会の活性化に尽力するひとつの理由は、同窓会のもり上がり、有形無形の学校への援助につながってほしいという願いにあります。それで、御諸兄にお願いがあるのですが、少なくとも同窓会の年会費ぐらいいは皆で出し合おうではありませんか。現在私たちの同窓会の年会費徴収率は8%という低い数字に甘んじています。卒業生24,000名のうちの実に2,000名足らずの会員しか納めていないこととなります。

我が卒業生は、これ程母校愛が少ないのでしょうか。それとも技術系特有のさめた感覚からの帰結なのでしょう。私はせめて、今の倍くらいの協力があれば、同窓会活動も、もっと活発に出来て、学校への援助も、ゆとりを持って、出来るのではないかと思います。

学部を越えた交流が、ますます人間的な結びつきを強め、それが、現在の私たちを育ててくれた母校への感謝になり、物心共にかたちになる応援をおくれるように、私はその触媒になれるよう頑張りたいと思っています。

大学の教育・研究活動を支える 年会費納入率の向上を目指して

KIT 同窓会副会長

藤 沢 寿 郎

(窯業工芸学科 昭和37年卒)



私の担当は「大学教育・研究の充実支援と年会費納入率の向上」である。

「大学の教育研究の充実支援」と「年会費納入率の向上」は表裏一体で年会費の向上なくして大学への支援は実現しない。

然し、過去の年会費の納入率は必ずしも良くないし、我々と同様の大学に比べても良い状態とは云えない。

2014年、京都工芸繊維大学が、スーパーグローバル大学として決定されたことは、大学の特長や独自性が評価された結果であり、我々卒業生としても大きな誇りである。

今後、国からの期待に沿うように大学が活動し、結果を出すためには、目に見えないところでの支援が必要である。

その為にも、会費納入率を向上によって、支援することが、我々卒業生の出来る唯一の支援である。同窓会の役員会や委員会で色々な方策を検討している。

しかし、会費納入は結局卒業生皆様方の一人一人に繰り返しお願いするしかない。

幸いKIT 同窓会の組織が強化されつつある。支部組織も充実しつつあり、支部の活動も活発化されつつある。工芸学部（京都工大会）と繊維学部（衣笠同窓会）の一体感も深まりつつあり、共同で色々な活動や会議も進んでいると実感している。私自身、支部活動で繊維学部卒業生との一体感を支部での会議や総会で深まったと感じている。

また、色々な部会も増えつつあり、活動も活発化している。

組織の強化と相まって、会費納入率の向上も図られると考えているが、一方会費納入者への特典も考えていきたい。皆さんが早く終身会員になりたくするような提案をしていきたいと考えている。

今後色々な場や情報を通じて皆様をお願いしていきたいと、考えている。

どうか、ご協力お願いします。

KIT 同窓会 副会長就任挨拶

KIT 同窓会副会長

谷垣 弘 明

(製糸紡績学科 昭和43年卒)



平成26年6月28日の KIT 同窓会総会において会長に中村淳氏が選任されました。

下記副会長も選任され会長代行は谷垣弘明が指名されました。

副会長①支部活性化委員会：小角 亨

②年会費納入率アップ委員会：藤沢寿郎

③広報委員会：杉本一郎

④新事業創設委員会：谷垣弘明

と副会長の仕事の分担も決められ各事業委員会を仰せ付けられました。

各副会長はそれぞれの役務分担にあわせ鋭意努力されています。

また、小生、谷垣は、再度新事業創設委員会委員長を仰せ付けられました。

継続して新事業の創設に取り組みたいと考えております。

「大学と協力して、大学のイメージアップと同窓会自体の存在価値アップのために事業を起こして収益を上げ同窓会の活性化と大学への支援、寄付行為などの役に立つ事を目的として事業をする」を目的として新たな事業展開を模索しております。現在進行中又検討中の案件は下記のとおりです。

シルク関連事業、VISA ゴールドカード、大学ブランドグッズ、ホームカミングデー、その他、そして新規アイデア募集中です。委員以外の方でもアイデアがあれば事務局までご連絡ください。

同窓生の皆様のご協力を切にお願いいたします。

事業を起こすには同窓会の法人化が大きな問題としてあり、その解決が待たれます。現在法人化検討委員会にて準備進行中です。

また支部活性化委員会で小角副会長が対応されていますが、近畿支部の立ち上げにも参加させていただいております。京都工芸繊維大学同窓会近畿支部は通称 KIT-KINKI として新しい組織で平成27年2月8日に第2回支部総会が開催されました。近隣の同窓生の集まりを活性化させるべく頑張っているところです。いろいろなイベントなどの企画実行へむけて取組を進めています。会員の皆様のご積極的なご参加をお願いいたします。

同窓の人的交流を 増やしましょう！

KIT 同窓会副会長

杉本 一 郎

(繊維工学科 昭和49年卒)



昨年の総会にて副会長・広報委員長を仰せつかりました。偶然か必然のか何かを期待されての指名でしょうかから少しでも期待に沿う事が出来ればと思ひ僣越ではありますが甘受致しました。

「KIT 同窓会」を知るべく会則、会誌、同窓会・大学 HP に目を通し、何をする事が同窓会として得策なのかをイメージ致しました。任期の2年間の行動中には軋轢も多々有るでしょうが筋を通しながらの言動に努める所存です。

現 KIT 同窓会は、同窓先達の皆さまのご苦勞を頂いて、工大会、衣笠同窓会を統合され今に至っておりますが目指す処には未だ道半ばのようです。同窓生間の人的交流が最大限活性化することが同窓会活動の根幹であり、最大の目標、課題であると考えます。

今の同窓会は、①年間予算が少ない。②世間同様に高齢化し若・壮年層の同窓生交流がほぼ無い。③学生会員との交流もない。④同窓生の音信は、総会の他は会誌『工織』だけ。と云うところです。

「同窓会」に多くの親近感を感じて頂くには、魅力度 UP が肝要です。その『魅力度 UP』の一步步を具体的にトライして行こうと思っています。

例えば、同窓会が『松ヶ崎祭』にテントを設営・積極的に参加する。「松ヶ崎祭」を後援・積極的に学生に近づきます。≡将来の同窓生を増やす近道。又同窓生を母校に集める努力をします。旧交を温め合える『ホームカミングデイズ』の場を1回/年設けます。これらに予算を付けて実行しましょう！と云うことです。

同窓会誌『工織』は、年1回の同窓生の情報に触れられる重要で貴重な情報誌でありますので、今後とも継続を考えておりますが、現在はインターネット、メールやスマホと言った情報ツールが情報交流の基盤となった社会です。

広報委員会としては、より多くを情報発信・交流できる体制作りが同窓会発展に必要な不可欠であると考え、平成26年度予備予算を活用し今年3月に「新 HP」を立上げるに至りました。

同窓の皆様が“観て楽しく・見て役に立ち・魅力的な情報が常に載っている”と感じて頂けるよう+1年をかけて充実を図っていく所存です。

同窓会各種行事の発信のみならず、同窓の皆さまの種々近況を HP に載せ同窓の輪を広げていけるよう又魅力あるものにしたいと念じております。

最後に皆様へお願いです。①「KIT同窓会HP」を観る機会を増やしてください。②学年会やクラス会又は趣味・同好の会等様々な「予告」「報告」。同窓の方々の活躍されている場面等も HP でお伝え致したく、皆様からの披露可能な情報等々をお持ちの場合、是非とも同窓会事務局(広報委員会)迄、積極的に随時お寄せいただく事をお願いしてご挨拶に替えさせていただきます。

副学長就任のご挨拶

京都工芸繊維大学
理事・副学長
森 肇



私は昭和57年に繊維学部蚕糸生物学科を卒業し、5年半ほど名古屋大学大学院農学研究科に在籍し、昭和62年10月に本学応用生物学科の助手に採用されました。その当時の教授は松原藤好先生ですが、実は学部の時の指導教員も松原先生でした。ですので、今でもずっとカイコやカイコに感染するウイルスに関する研究を続けております。平成26年4月1日より本学の理事・副学長（研究・産学連携担当）を努めておりますが、同窓生の皆様におかれましては是非ともお願いしたいことがございます。国立大学法人は大まかに言いますと国からの運営費交付金、授業料収入と外部資金によって運営されています。この内、外部資金は科研費と呼ばれる科学研究費補助金、受託研究、共同研究などですが、これらは大学、すなわち教員の努力目標です。外部資金が増えれば増えるほど、大学の研究力のアップにつながりますし、逆にこれらが細りますと研究力の低下を招きます。また、研究力の向上は教育プログラムの充実と共に大学への魅力、それは受験志願者数のアップにも直結します。現在大学はこの研究力の向上のための様々な取り組みを進めております。しかし、このような取り組みを進めるためにもできるだけ多くの外部資金を獲得する必要があります。そこで、企業や研究所などでご活躍されている方、あるいはご退職された方にも是非一度大学の今の状況をご覧頂き、この外部資金獲得につながるような受託研究や共同研究などをお考え頂けると誠にありがたいのです。卒業生の方とお会いすると「大学はものすごく変わったね。」とよく耳にします。ですので、是非大学の今をご覧頂きたいのです。大学に直接お越し頂いても結構ですし、ホームページなどでご覧頂いても結構です。もちろん本学は卒業生の方だけではなく、常に広く門戸を開いております。是非、本学の今をのぞいて頂きますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶

京都工芸繊維大学
副学長
森 本 一 成



（電子工学科 昭和51年卒）

2014年4月に副学長を拝命致しました。国際担当を仰せつかっております。京都工芸繊維大学同窓会のみなさまには、平素より、ご支援とご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。本学は学術国際交流に対して戦略的に方策を講じて参りました。そうした活動に対しまして惜しみないご支援を頂いておりますこと、ありがたく存じます。とりわけ、3年前から同窓会より頂いておりますご寄付は学生の海外派遣渡航費の一部に使わせて頂いており、この間に学生の派遣ならびに留学生派遣が飛躍的に伸びました。このご寄付がなければ国際学術交流事業がこれほどまでには加速しなかったと言っても過言ではありません。ご承知のように、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されました。採択37大学の内の1校に選ばれましたことは本学の国際化の将来には誠に喜ばしいことです。非常に狭き門を突破できたのは、これまでの実績を基にした本学独自の提案が認められたことによることでもあります。教職員の方々の普段の強い絆と同窓会からの後押しがあったからと考えます。スーパーグローバル大学創成支援事業につきましては新聞雑誌等で取り上げられ、学長がすでに何度も紹介しておりますが、たとえばグローバルな現場においてリーダーシップを発揮出来るテックリーダーの育成を目標の一つとしています。専門分野の知識や技術ならびに語学力はもちろんのこと、日本人のアイデンティティを備えた人材をその要件の一つに掲げています。また、学生の英語鍛え上げプログラムにつきましても新聞に掲載されました通り、順調に進んでいます。教職員に関しましては、たとえば平成27年度は教員10名、職員1名を海外に派遣します。これを9年間続ける予定です。海外の教育プログラムを肌身で感じて吸収してもらい、帰国後は英語による講義をすることになります。将来的には大学院の講義はすべて英語で行う計画になっています。さらに別プログラムの「トビタテ！留学 JAPAN」には平成26年度に3名が採択されました。他大学の多くが1名であったことを考えますと画期的なことだと思っています。

本学は社会連携、地域連携、産学連携活動を精力的に展開しております。そこに国際化の視点を加味し、本学の伝統ならびに学術的資源の活用を通じて、本学の独自性を培って参る所存です。同窓会のみなさまにはより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

活性化委員会活動の 1年を振り返って

委員長 小 角 亨
(建築工芸学科 昭和36年卒)

活性化委員会及び各支部の動向

活性化委員会は、10名の方々を委員としてお願いし、年間およそ3回の割合で、同窓会の活性化について話し合ってきました。

既に昨年は、関東支部は東京を中心に、東海支部は名古屋を中心に、それぞれ第2回の総会を、約100名前後の会員を集めて、盛大に挙行されました。特に東海支部は、参加者の70%までが、50代までの若い人達という誠に活気に満ちた総会でありました。

最近では、2月に近畿支部が、やはり100名の会員を迎えて、京都で大会を行いましたし、熊本県支部は3月28日に熊本城内で、第2回総会が開催され、私も出席しました。また、今年のおくには、滋賀県支部も結成される見通しです。

このように、前執行部のまかれた種は、各地で芽を吹き、力強く成長を始めたわけですが、これもみな旧衣笠会の組織を核に手を広げているわけで、旧工大会の縦のつながりの弱さを、今さらながら痛感する次第です。

活性化委員会主催の全国支部長会議

同窓会のKIT化つまり全学的統一は、やはり今まで連綿と活動を続けて来られた衣笠会の支部を中心に、その骨組みに肉をつけていくこと、つまり各地区におられる他学部同窓生に働きかけて、組織を広げていくことしか活性化の道はありません。

従って、少々遅きに失した感はあるのですが、3月26日活性化委員会の開催に合わせて、合同で、全国支部長会を行うこととしました。この全国の支部長の中には、既にKIT化した支部の長の他に、衣笠会の支部長もおられ、話し合いの中から、問題点をみつけ出し、全学的なバックアップによって、各地の支部の活動に支援を送りたいと思っています。

いずれ、この会議の様子は、次の機会にでも御報告いたしたいと思っています。

大学の教育活動支援と 年会費納入率向上委員会

委員長 藤 沢 寿 郎
(窯業工芸学科 昭和37年卒)

平成26年度総会でKIT同窓会の副会長に任命され、「大学の教育活動支援と年会費納入率アップ」を担当する事になり約半年が過ぎました。

代々の学長が京都工芸繊維大学のコンセプトとして継続されてきた「アートとテクノロジーの融合」を掲げて研究・教育を進められてきた活動が他大学にない先駆性と独自性を認められ、文科省から「グローバル重点戦略拠点」として位置づけされたことは我々卒業生としての誇りでもあります。

私が担当している「年会費納入率アップ」はまさに同窓生として、大学を支援する要になると思っています。

「納入率向上委員会」はまだ充分その機能が発揮出来ている状況ではありませんが、第一回打ち合わせを平成26年9月にその施策を検討しました。

その結論は「色々な場を通じて同窓会員にお願いをし、理解をして頂くこと」であります。

幸い新しくKIT同窓会が発足して以来、多くの役員の方々の努力により、衣笠、松ヶ崎が一つに纏まり、垣根がなくなってきました。

また同窓会員の協力で、新しい支部や部会が各地に誕生しつつあり、同窓生の集まりが増えつつあります。支部長、部会長にお願いして同窓生の集まりで「会費の納入を皆様をお願いしていただく事」、また「卒業35年を迎えた卒業生には終身会員のお願い」を直接していく予定です。今後色々な施策を検討してまいります。他の委員会である「支部活性化委員会」、「広報委員会」、「新事業創設委員会」を担当されている副会長との連携を強めなければなりません。

特に杉本副会長が企画提案の新卒業生に「VISA ゴールドカードへの申込」による会費納入率の向上は大きな期待がよせられています。

今後、各支部や部会からもご意見を頂きながら、会費の納入率向上に努めていきたいと思っています。

広報委員会活動

委員長 杉 本 一 郎

(繊維工学科 昭和49年卒)

広報委員会は、平成26年総会時に2年任期の委員長交代が有りましたので、前2年間の議事を要素に応じ整理集約し方向性を確認いたしました。その中で、会誌『工織』については支部、部会、同窓生の活動状況の掲載が充実し厚みを増しているとの総意により、No9号についてもNo8号を踏襲していくことになりました。

又、発行頻度については、年1回では情報のタイムリーさが無い上に、所在把握の同窓生(24,000名強)に送付するには会費納付会員(約3,000名)の割に費用が掛かり過ぎ、現同窓会予算では到底複数回の発行は不可能だと結論付けました。とは言え活性化を図るには、情報交流の拡大は必要不可欠であると委員会にて合意し、従前からの件案でもある『同窓会ホームページ』を委員会が主体性を持って刷新していくことと致しました。以下はそのホームページの件についてご説明いたします。

**皆さん、是非とも『京都工芸繊維大学同窓会』
又は『KIT 同窓会』とキーボードに打込んで下さい！**

同窓会の本部・支部・部会等の活動がいち早くホームページ(以降HP)で伝えられるよう、また会員・支部・本部・学生・大学等さまざまな部門・個人との情報交流が可能なHPシステムとして、平成27年3月24日大学の学位授与式(卒業式)前日に新同窓生を歓迎する意味も含めて立上げる事が出来ました。以降は、27年度の予算枠を頂いて+2段階を踏んでより充実したHPにして行くよう努力していく所存です。

つきましては、皆様からのHPを良くする為のご意見。HPに載せて欲しい!と言うご提案。HPにリンク(繋げる)して欲しい!と云うお願い。先ずは何でも結構です。HPの質問・問い合わせページを使って本部めがけて投げかけてください。直ぐに答えを出せないかもしれませんが、順次解決させていきたく思っておりますので、積極的に、気長にHPの成長を見守って頂けるとありがたいと思っておる次第です。

**広報と併せて同窓生集會を増やし盛上げるべく、
同窓の皆様へのご提案。是非参加・申請願いたし!**

同窓会を楽しみましょう!『同窓会会費納入とVISAゴールドカード申込み』がお得です!

この度同窓会が、会費納付会員、終身会員の増大と共に同窓会活動(同窓生・学生・大学相

互の交流)の様々な親睦・交流の拡大を意図して、三井住友トラストのVISAゴールドカードを積極活用して多くの特典を設けた新企画提案を会員の皆様にご提供申し上げます。是非とも趣旨をご理解いただき、奮って申込みいただきますようお願い申し上げます。

尚、各種特典をお受けいただける必要条件是、既に終身会員であること、又は継続的に年会費を納められ終身会員資格に向かわれている皆様です。現在会費未納の皆様には、先ず年会費継続又は終身会費の納入を頂きますようお願い申し上げます。

◎同窓会費を納入いただくに当たっての特典

《特典1》同窓会会費を1,000円引き致します。

◎VISAゴールドカード申込み・カード発行(審査後)に当たっての特典

《特典2》年会費が、1万円+消費税のところ
が、2,500円+消費税となり、年間
7,500円割安です!

《特典3》1,000円分の商品券等の進呈が有ります。(平成27年9月末まで。カード発行後2週間程でお送りいたします)

《特典4》海外・国内旅行傷害保険、ショッピング保険、空港ラウンジ使用、その他にもいろいろなサービスが用意されています。

◎同窓会の活動をするに当たり

《特典5》総会、理事会等の懇親会に限らず、大学時代の学級会、OB主催の各種懇親会等5人以上が集う各種行事に参加した本ゴールドカード会員に対して会費補助を行ないます。(同窓会費納入会員が前提です。又、懇親会費(飲食代)の20%。最大1,000円を補助します。)

◎既に同窓会が案内しましたVISAゴールドカードに加入されている方へ

特典5を受けるに当たっては、同窓会と三井住友トラストカード(株)との間で、会費納入、郵便物送付等に必要範囲での住所・氏名等の個人情報を共有することへの同意が必要となりますので、同窓会事務局へご連絡下さい。

新事業創設委員会報告

委員長 谷 垣 弘 明
(製糸紡績学科 昭和43年卒)

平成25年から始まったこの事業もまる2年を過ぎ3年目に入りました。

色々な提案を頂き継続審議案件も多数抱えながら継続しています。

法人化への目途も付きこの6月の総会で大幅に進展するでしょう。

特に27年の事業としてはゴールドカード加入による年会費の納入率アップと会員のコミュニケーション対応の促進、そして新たな取組としてホームカミングデイ or デイズ、ウイークの取組を取り上げました。

同窓会の活動が認知される最大のイベントと考えております。

ぜひとも同窓生の皆さんのお力をお借りして成功させたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

過去の会議の議事内容を下記します。新たなご提案も歓迎しますので宜しく。

ご提案があれば事務局までご連絡ください。

新事業創設委員会経過報告

第8回	4月23日	15名	①学生支援事業は進展なし ②養蚕事業 ③大学ブランド商品 ④同窓会のホームページ-広報委員会へ ⑤法人化は総務委員会の検討委員会へ
第9回	6月18日	13名	①委員の中での会費未納者への納付依頼 ②養蚕事業 ③大学ブランド商品
第10回	8月20日	13名	①大学ブランド商品について大学の意見を求める、次回副学長委員会へ参加 ②シルク事業についてはシミュレーションが必要
第11回	10月17日	15名	①委員会の進め方の再検討 ②森迫副学長参加、大学ブランドグッズ、大学ロゴ使用等検討 ③ロイヤリティの問題は継続審議とする。
第12回	12月17日	10名	①草木染め(ワークショップ)提案 ②ゴールドカード新規入会への対応を進めることを決議 ③ホームページ作成への対応 ④ホームカミングデイへの取組を進める。
第13回	2月18日	17名	①ブランドグッズ継続審議 ②草木染め教室の提案-場所先生について調査をする(森迫副学長にお願い)。 ③ゴールドカードの勧誘について卒業式当日の作業 ④ホームカミングデイの実施決議 ⑤ホームページの作成進捗説明

退職教員挨拶

定年退職にあたり

竹 谷 茂
(応用生物学部門)



生体の物質代謝から始まり分子生物学の研究へと時代に応じて広く生命科学分野に身を置いて来たが、その中でもふたつの事柄がいま頭を過る。現代生物学の実験を行っていて、毎日欠かさずに使っている方法にアガロースゲル電気泳動がある。遺伝子や核酸の解析には無くてはならない必需品であり、世界中の生命科学の全て研究室で使われている。アガロースは1954-7年世界で初めて寒天から Hirase & Araki によって単離された。これが本学3号館の3階にあった研究室で行われた事を知っている人は多くないと思う。私が1980年初頭に米国に留学した時、初めてDNAを扱ってアガロースゲルを用いた。研究室の欧米人が、アガロースを最初に見つけたのが、日本人である事を知っていたので驚いた事を憶えている。今でこそ、アガロースの値段は安価になってきたが、当時の値段で500g約10万円と言う高級品であった。その後、分子生物学の目覚ましい発展に伴ってアガロースは生命科学の主役になった。平瀬進先生にアガロースの発見等の事を尋ねた所、アガロースは単離した当時、日本の科学者や企業は見向きもしなかったが、その素晴らしい性質はヨーロッパ人によって見いだされたと言っておられたのが耳に残っている。アガロースゲルを使うといつもこのことを思い出すと同時に本学オリジナルのアガロースを使って研究する事に喜びを感じる。このような小さな大発見を知る一方、退職する年度にSTAP細胞事件が起こった事は、生命科学に従事して来た人間にとって大変残念なことである。それは急速に発展して来た日本の生命科学界で起こるべくして起こったとしか言いようのない悲劇である。安易に高価な商品を簡単に使えるようになった実験系において起こった落とし穴の一例に過ぎない。科学は成熟することなく、試行錯誤で進歩することを考えると、多くの研究の弱点を見直してさらなる発展が望まれる。

退職のご挨拶



岸 本 通 雅
(生体分子工学部門)

平成17年4月1日に京都工芸繊維大学に赴任してから約10年間化学工学の分野を担当して教育、研究にいそしんで参りました。この間熊田准教授をはじめとして、化学工学研究室に所属された方々、諸先生方のご協力を得て無事に退職できたことを謹んでお礼申し上げます。

私の課題はずっといかにして化学工学をバイオプロセスに応用させるべきかにかかってきました。化学工学はエチレンプラントを始め、石油精製、石油化学、各種化学工業では華々しく成功を収めたのですが、バイオプロセスに関しては、複雑な生体内反応システムを内在した細胞を取り扱うため華々しい成果とまではいかないのが現状です。生体内反応はDNA→RNA→タンパク質といったセントラルドグマを基本構造に持つ情報システムによってコントロールされており、反応全体のネットワークが非常に複雑で、反応間でも互いに影響されあっています。本学在職中もこのやっかいな問題に悪戦苦闘し、周りの学生にも迷惑をかけているなど思いつつも、プロテオーム解析や、抗体生産システムなどの研究を続けてきました。また熊田准教授のタグ付き抗体の研究にも参画し、これまで開発してきた培養技術などと共に、ある程度産業の発展に寄与してきたと考えています。

教育においては化学工学は各種化学工業、繊維工業、鉄鋼、食品、製薬、などの製造プロセスの開発や工場設計、運転管理などで必須の学問です。このような重要な分野の授業担当を任されたことには非常に光栄に感じます。ただ計算の演習をもっとやるべきだったのかとか、もっと説得力のある授業ができなかったのかと、反省することが多い昨今です。まだ研究および教育意欲はあるのですが、そろそろ引け際と考えています。しかし私でも何か役に立つようなことがあればいつでもお声をかけてください。

皆様のご発展をお祈りします。

退職にあたって



石 川 洋 一
(物質工学部門)

1986年4月から1989年3月まで、オタワにあるカナダ国立研究所のレーザー光化学研究グループで過ごしました。そのリーダーであったP. Hackettとはレーザー同位体分離の研究を通して以前から知り合いましたが、雑談をしている時に、彼のグループに時間分解赤外吸収測定システムのあることを知りました。Northwestern大のE. Weitzが、同様の装置を用いた遷移金属カルボニルの気相光分解の報告を出し始めた頃でした。遷移金属の配位不飽和サイトは、表面の活性サイトのモデルになるのではないかということで、オタワに行くことにしました。勉強不足の私は、R. Hoffmannが同じようなモデルのことをすでに書いていたことを知りませんでした(“Solids and Surfaces: A Chemist's View of Bonding in Extended Structure” ed. by R. Hoffmann, VCH Publishers, 1988.)。体調を悪くして入院するといったこともありましたが、何も考えずに研究(と遊び)に没頭することができた2年間でした。リーダーは資金獲得のための申請書作成などで大変だったでしょうが、私は勝手に研究だけをさせてもらいました。自分ではそこそこ満足のいく成果(気相で行いましたので、絶対反応速度だけでなく、“裸”遷移金属不飽和サイトと小さな分子の相互作用を実験で観測)を出せたと思ったのですが、残念ながら世間ではたいした評価は得られませんでした。

もうすこし利発で、感性があり、想像力があればと、この歳になっても思います。常にできないこと判らないことばかりが多く、あがいてきた35年だったかもしれません。そういう自信のない我儘勝手な私にお付き合いくださった方々(学生さんも含めた)に、この場をお借りしてお詫びとお礼を申し上げます。

本学の発展に向けて



高 河 原 俊 秀

(電子システム工学部門)

本学にお世話になってから、早や15年が経ってしまいました。私は、法人化の際の経緯から所属は電子システム工学部門でしたが、一貫して全学の共通物理を担当してきました。その間、学生の物理離れが顕著になってきましたが、工学の分野の多くは物理学を基盤としており、その重要性は時代が変わってもいささかも翳ることはありません。物理学は基本的に思考力の強靱さを要求します。それが昨今の学生の物理離れを引き起こしていることは確かです。少し考えてもわからないから、考えるのをあきらめて、公式を覚えるだけにするというのが、大半の学生です。しかし、新しいものを生み出すには、基本に立ち戻って徹底的に考える姿勢が必要です。では、どのような教育をするか。これは永遠の課題であり、正解はありません。私は授業でも演習においても、「わからないことが出てきても、基本に立ち戻って考えればなんとかなる」ということを体得してもらうために、導出するのが難しい公式でも基本から出発して詳細を一切省くことなく導いてみせました。この姿勢が、学生諸君に定着することを願っています。

さて、この10年の間に大学を取り巻く環境は大きく変化しました。昨今の大学は、文部科学省からの指示に対応するのに手一杯で右往左往しているように思われる。本学は地域貢献推進事業、スーパーグローバル化推進事業等に採択されており、順風満帆のように見える。しかし、事業を担当する職員、教員、特に若手の教員の負担が増え、本来の教育・研究にしわ寄せが生じてはいないか、気になるところである。本学は、AO入試、3年次編入試験、先端科学技術課程など教育上の業務、またISO14001に則した環境維持活動などを抱えており、負担業務が多すぎるように思われる。やはり、選択と集中が必要と思われる。

最後に、教員・職員皆様の地道な努力の積み重ねにより、本学の社会での知名度が向上してゆくことを祈っております。

退職にあたって



中 森 伸 行

(情報工学部門)

1968年4月、本学に入学してから、短い民間勤めを除く、44年強、本学で過ごした。私の人生そのものである。この間ご指導いただいた先輩の先生方、また、研究・勉学を共にした多くの教員や学生諸君およびお世話になった職員の方々に、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

退職に際し部屋の整理をしていると、古い様々なものが出てきた。青焼きの論文、計算尺、雲型定規やロットリング用のペンが出てきた。今となっては、手作業で行っていた論文作成も懐かしい。今ではその作業はコンピュータに代わった。便利になったものである。思い出すに、卒業研究で初めて使用した計算機では、紙テープでプログラムを作成する物であった。時代の変化に驚くばかりである。また、電気棟(現5号館)の屋上で比叡山を背景にした一枚の写真が出てきた。当時、電気棟の南側には、高電圧実験室、ノコギリ屋根の染色工場、北側には木造2階建ての数学教室、プール、武道場があった。そして、その奥には松ヶ崎に移ってきたばかりの繊維学部の新しい校舎が見えた。大学の周りは長閑な田園風景であった。大学構内の建物、北山通開通後の大学周辺の環境はすっかり様変わりをした。ただ、残念なのは、屋上から8月16日の五山の送り火を眺めることが出来なくなったことである。もう一度眺めたいものである。

40年間に変わったのは、大学の周りの環境やモノだけではない。大学自身も、何度かの組織改革が行われてきた。時には、大学危機が叫ばれたこともあった。現在もより良き大学を目指し、社会の流れとともに変化している。本学は「スーパーグローバル校」に選ばれ、世界を引っ張っていく役割を担っている。また、京都府立大学や京都府立医科大学との教育連携を深めている。何時の日か、高野川と加茂川が合流して鴨川となるように、3大学が一緒になる日が来るのであろうか。退職後は、発展した大学を楽しみに、何度も訪ねたいものである。京都工芸繊維大学、長い間どうも有難う。

退職のご挨拶

秋山 雅 義

(機械システム工学部門)



早いもので本学に転職してから8年3ヶ月が経ち定年を迎えた。33年弱勤めた鉄鋼会社での経験を大学での教育と研究に活かすべく公募に応募し、幸運にも採用され、勇躍赴任した日のことが頭を過ぎる。正直に述べれば、私より40歳ほど若い学生達との日常は、新鮮ではあるが戸惑いの連続であった。働いてその対価を受け取るという覚悟で企業へ入って来る新入社員とは異なり、入学し、4年生になると研究室に入ってくる学生たちは、ある意味でまっさらの心を持っていた。彼ら彼女らとの有意義な時の過ごし方を種々思索しトライしたが、私一人の力はちっぽけなものだと痛感することしきりであった。その結果辿り着いたのは、他の方々のお力を拝借し、学生達に経験を積んで貰うことであった。具体的には、他の研究室や他学科そして工場の方々の、あるいは学外の方々の助力を頂戴した。私もそうであろうが、平日頃接する人以外の話には、彼ら彼女らは真摯に耳を傾け、またその指導を受け容れてくれたと思う。中でも大きなインパクトがあったと振り返るのは、大学の制度を使わせて戴き、学生たちと海外の学会発表に積極的に行かせて頂いたことである。その中の何人かは海外の大学の教員の方々に直接の研究指導を受ける機会を得たが、これら一連の活動を通して参加者は成長してくれたのではなかろうか。また、雑誌投稿論文や特許の執筆をしてくれた学生達は別の面での成長の跡を見せてくれた。学内審査を経て弁理士と話し合いながらの一連の作業は彼らにとって大きな体験であったであろう。何れにせよ、本学の制度を活用させて頂く機会を頂戴したことが学生達の成長に大きく寄与したと確信しており、ここに深甚の感謝を表したい。但し、投稿論文や口頭発表の形で比較的短期間で現れる研究成果とは異なり、教育の成果は遅効性があり、その顕在化が定量的に表しにくい。私の棺を覆いて後の評価が少し気になる。

退職のご挨拶

藤戸 幹 雄

(デザイン経営工学部門)



2001年本学に赴任し、早14年がたちました。多くの方々にお世話になり御礼を申し上げます。

弊職は日産自動車デザイン本部、商品企画室の経験、また海外の Royal college of Art への社名留学、Helsinki University of Technology での研究職、教職などを経て、本学、京都工芸繊維大学でお世話になりました。御礼を申し上げます。

ビジネスの世界からアカデミックの世界に来た理由は2点ございます。日本におけるビジネスでのデザインの立場の弱さの理由を解明したかったこと。もうひとつは、パウハウスに始まりウルムと引き継がれたデザインの方向性を確かめたかったからです。

創成期のデザイン経営工学という部門に入り、理論的な知見はまだまだでしたが、デザインをただ単に De (計画) Sign (意匠) と捉えるのではなく、他の分野との融合という概念に新鮮さを感じたことを今でも思い出します。

当時は Helsinki University of Technology, Stanford University に Design Engineering Management の概念を取り入れたコースが出来ており日本においても同様の動きが出たこと。またその分野に幸運にも入ることが出来、14年間勤務、教育研究に携わることが出来ました。時代がまさに、デザイン経営工学という分野が花開きそうな時期に携わったことは幸いでございました。蛇足ですが、Helsinki University of Technology では経済大学、芸術大学と合体し世界で初めての総合デザイン経営工学大学 (Aalto University) が5年ほど前にできております。

さて、日常の大学の生活の観点から振り返りますと、良かった点、苦労した点は半々でした。簡単に箇条書きにしますと、

良かった点

1- ゼミで150人強の学生を育てることが出来ました。厳しく接したせいでしょうか、活躍する卒業生が増えてまいりました。多くの子供を持つことが出来うれしい限りです。

2- デザインという分野の知見を自分の頭の中で整理することが出来ました。

これらは出筆をし、世に出したいと考えております。

苦労した点 悲しかった点

1- アカデミックの縦割りのシステム。もっと自由、開放的であっても良かったかも知れません。人事、後進の指導、会議、決定システムなど融通がききません。最近海外へ近づきつつありますが、まだまだ改善の余地があると思いました。

2- 単身赴任は正直つらいものでした。弊職の家庭に多大な犠牲と迷惑をかけました。

3- 教え子を3人なくしました。時々思い出しますと涙が出てまいります。

以上、事務的になったかもしれませんが、退任のご挨拶とさせていただきます。

今後は、ビジネスの世界に戻りながらもアカデミックの仕事も続ける予定であります。

今までご厚情、ご指導に感謝を申し上げますとともに、皆様のご活躍、ご多幸をお祈りいたします。

退職にあたって

山本 建太郎

(デザイン学部門)



そもそも私の京都工芸繊維大学への想いは長い。中学の修学旅行で初めて京都を訪れ、京都へのあこがれを抱いたまま高校に入り、それはスケッチブックを持って京都市街を歩いてみたいという具体的な夢となった。実現化した京都工芸繊維大学入学。デザインの面白さ、少人数クラスの仲間達、軽音楽部での活動、毎日が楽しく過ぎて行った。

1972年、東京のGKインダストリアルデザイン研究所に入社。デザインを研究する事務所である。さまざまな業種のクライアントと接する事となり高度成長期ということもあって多くのプロジェクトに携わることになった。28年の間に約400件、恵まれていたと思う。その間米国支社に転勤となり、5年半滞在。おもにヤマハのバイクデザインを担当。そんなある日、日本から送られてきた米国向けバイクのスケッチを現地ヤマハでプレゼンする事となった。だが、日本で見ると素晴らしいデザインもなぜか米国で見ると違和感がある。それは何か、日本のデザインの押しつけかもしれない。米国の風土や文化そしてユーザーの価値観、それらがデザインに反映されてないのである。人を想い、人の価値観にフィットするデザインを求めていく。このことが以来自分のテーマとなった。

2001年、本学に赴任。大学は高度な知識と技術を学ぶと同時に研究する姿勢を学ぶところだと思ふ。そのため研究室では産学連携プロジェクトを通じた実践的なデザイン経験からデザインを学ぶことに注力した。研究室は学生達と勝負するデザイン道場のような雰囲気である。多くのプロジェクトを実践し学生の成長を実感できた事は大変有意義なことであった。昨年設置されたD-labの国際的なデザイン研究教育活動によって本学が世界が注目するデザインメッカとなりさらに発展されることを期待している。

14年間、すばらしい仕事の間を与えてくださった大学、そしてご指導ご援助いただいた造形科学系のみなさまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

言語教育に携わって

西江 秀三

(言語・文化部門)



本学には14年間お世話になりました。

着任当時は旧電子情報工学科に所属し、一部専門の授業も持ちましたが、主に全学共通のドイツ語教育に携わっていました。しばらくすると英語も教えるようになり、やがてフランス語の授業も持つことになりました。最近5年余りのあいだはこの三つの言語に関わる授業を並行して担当してきましたが、世界がグローバル化し、それを担う言語がほぼ独占的に英語になりつつある現在、英語以外の言語を学ぶ一般的な必然性がますます希薄になり、それぞれ専門に関わる課題に忙しい日々を送っている学生にとっては時間の余裕もなく、ドイツ語やフランス語を継続して学んでもらう場を設定するのが非常に困難と痛感する日々でした。しかし、ごく少数ではありますが、卒業に必要な言語教育科目単位を取得し終えた後、自主的にドイツ語やフランス語等の言語を学びたいと申し出る学生もいました。そのような学生たちとの交流が、ことばを教えるという微妙な場所に立ってしまった私にとって、講義室でフランス語やドイツ語や英語を教える際の支えになってくれました。そのことを深く感謝しています。

心残りが一つあります。これは本学だけではなく、日本の全大学に関わることですが、教養教育の中での英語以外の外国語教育についてはこれまでのあり方を真摯に変えていく必要があると強く感じます。ほとんどの学生がそこに行きつくことさえしない段階を設定し、そこへの積み重ね方式で、カリキュラムを組み立てても、現実的にはその初歩の段階の学びさえ形式化し、教員に熱意があっても構造的に空洞化していき、ほとんどの学生はただ単位を埋めるためだけ出席し、試験を受けるということになっています。それをきちんと見直し、限られた時間の中で異種のような言語や文化に触れ、認識の多様性を感得できるような授業体制を樹立し、英語以外の言語教育の活性化が図られることを今後も期待しております。

同窓会活動を明快に活発にするために！！

同窓会を

任意団体

から

一般社団法人

に変えます。

下記の趣旨のように、同窓会を任意団体から法人組織にしていくことが、同窓会の活性化に留まらず、社会的存在に必要な状況になっています。一昨年前会長三好様の提起により、法人化委員会が発足し、1年ほど検討を重ね、結果、27年6月の総会時に現同窓会員の皆様のご了承を得て、一般社団法人にする計画を進めております。24000人以上の卒業生を有する我が同窓会事業を公平かつ活発に行うことは、本大学の積極的な活動を支援するため、また場合によれば共同で事業展開ができることになると考えております。ただ国で決められた「一般社団法人法」に基づいて定款や規則を作らねばなりません。そこで正会員制や代議員制という少し複雑な制度にしなければならないことや、運営組織をわかりやすく、明快にしていかなければならないこと、また会費や寄付金などの金銭的な処理を明確に行うことなどのために、制度を作っておりますので、ご理解をいただきたく存じます。我々に似た組織としての東工大や名工大の一般社団法人同窓会の定款や規則を参考にし、より運営しやすい体制づくりを目指したものでありますので、総会の事前に様々な広報(会報やホームページ)にてご案内することにいたしました。

よろしくご検討下さり、ご意見が有りますれば、ご連絡いただけますようお願いする次第です。総会時までには皆様のご理解をいただき、総会においては皆様が積極的に行動に参加できることを期待しております。

京都工芸繊維大学同窓会 法人化検討委員会 吉羽 敏郎
(48年意匠工芸学科卒・事業デザイン会社 IFP 代表取締役)

【 法人化の趣旨 】

京都工芸繊維大学同窓会は、国立学校法人京都工芸繊維大学の卒業生と在校生、およびその前身である京都蚕業講習所・京都高等工芸学校の卒業生により組織された団体です。百年を超える歴史の上にそのすべての人を一つに集結した団体です。全国に広がる24000名余りの卒業生を会員とする団体が、母校のため、また母校と協力協調し、そして日本社会のために出来る力を発揮する積極的な母体として活動するためには、社会的責任を全うする法人化は当然の流れでもあります。そして、改組する必要から一般社団法人としての法人化を選択した次第です。

つまり、母校である国立大学法人京都工芸繊維大学を支えると共に、双方が協力し合って実社会との真の交流を具体的に図っていくことを目指すために法人化を行うものです。もちろん基本は卒業生の交流と親睦を基軸に行うものであることは変わりありません。学部学科単位での同窓会だけでなく、地域毎の活動を推進し、全国的な活動への展開を目指していくものです。

新・一般社団法人京都工芸繊維大学同窓会の定款内容の要説

同窓会を任意団体から法人(一般社団法人)にすることで、曖昧であった運営を明快にするだけでなく、会の活動を活性化し、また存在の目的を明確にすることにより、より社会的意義があり、また同窓生にとって価値のある、“使える同窓会”にすることができると考えています。

法人化を早急に行わねばならない理由は、活発化してきた同窓会の各事業を推進する上で、対外的な(大学との関係も含め)正式な契約事が、現在の任意団体では困難になることが判明したからです。またその要請もあるからです。法人化には、法律(一般社団・財団法人法)に則った定款や規則を作り、法務局への登記をする必要があります。その一般社団法人京都工芸繊維大学同窓会の定款案を公証人の承認を得る段階に来ましたので、現会員の皆様にお知らせし検討をお願いするのですが、いわゆる法律ですので、必須事項などもあり、解釈も難解の面もあります。そこで、この主意と任意団体との大きな違いなどのポイントをご説明いたします。

1 同窓会の目的はなにか

同窓会とは一般に同じ大学の卒業生らが集い、同窓会役員が考えたイベントなどに参加することで、同窓生との交流を図ることのみが、意義のあるように考えられてきました。

同窓会の組織として何をすればかばかり語られて議論されてきました。しかし、同窓生の現状や実態がわからない組織で、大学への支援や、在校生に対する支援は同窓生にとって何になるのかわかりません。同窓生の活躍状況を掴んでこそ、同窓会の支援の意味があります。

そこで、同窓会の目的を考えると、同窓生が今何をしているかその活躍を調べ、同窓会として同窓生の活躍支援することがまずすべきことではないでしょうか。そこではじめて同窓会としての活動や支援の姿が見えてくると考えます。まずは、同窓生を支援することでしょう。それによって大学や在校生への支援も意味を持ち出します。同窓会組織としてできることは、場を作り、また仕掛けを実行していくことです。それにより実のある同窓生間や在校生との交流が生まれ、大学への支援の重要さが発見されると考えます。

2 会長の事業会計責任負担を軽減し、理事会が全体で責任を負う組織体制

なぜ社団法人化をするのか?という質問がよくあります。その一つの答えは、会長の責任負担の軽減です。現状の任意団体で

は、法的には会計処理も会長個人のものとして税処理することになります。実際は税金を払う方法がありません。万が一、会長がなくなられた場合の処理は大変です。また任意団体では法人格がありませんので、各種の契約事では、会長個人の実印で処理することになります。それらの問題を解消し、責任分散し、運営や会計処理の継続をスムーズにするために法人化することが必要になっています。事業を活発化する今がその時期になってきたわけです。

これは、大学を支援する事業をする場合でも、また共同で事業をするような契約をしようとする場合でも、国立大学法人の大学としては、個人扱いでしかない任意団体の同窓会とは契約も本当はできません。年一度の総会だけで、事業を進行するような個人事業所的体制では、できることにも支障をきたすことになります。事業や金銭的責任という点で、法律に基づいた理事会や社員総会という構造を正式に機能させ、安定した組織にすれば、存在意義もより鮮明になっていきます。

「正会員制度」の導入 (会員を分類し条件設定をします)

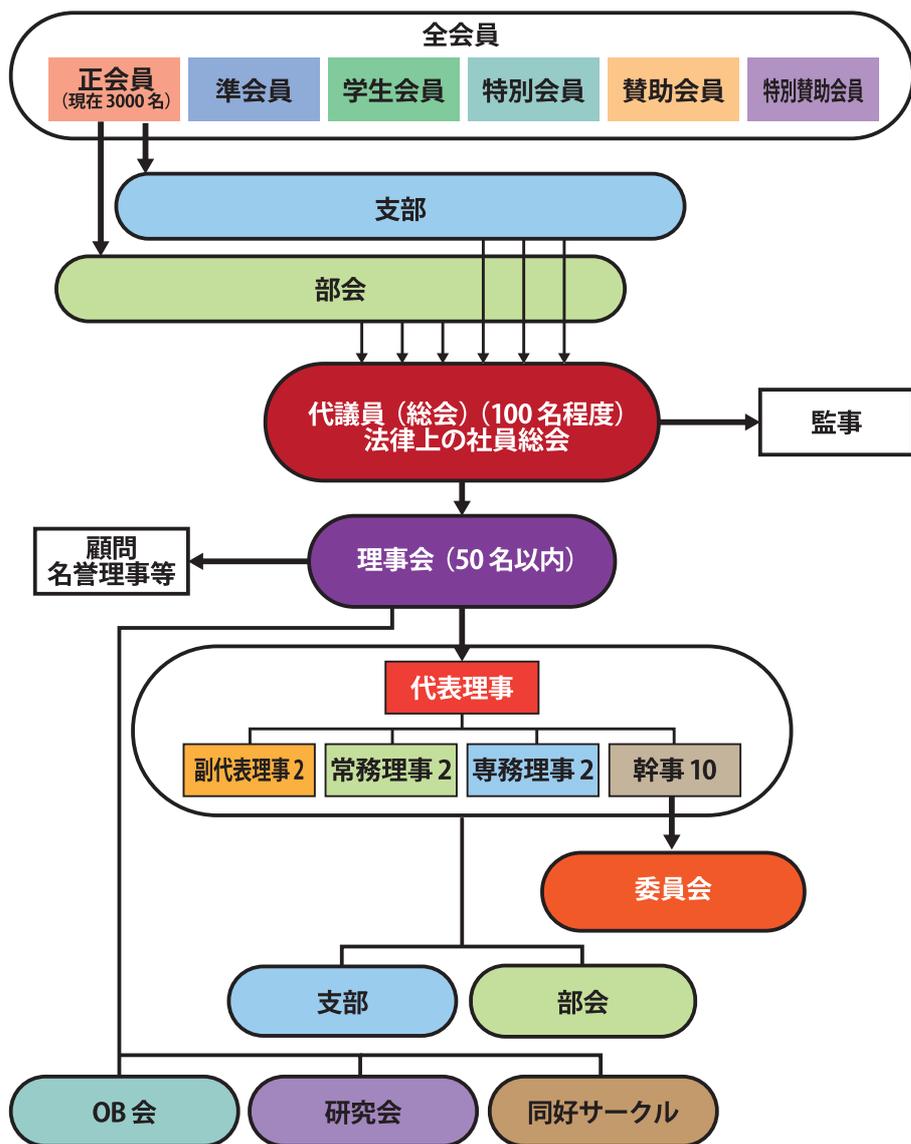
任意団体としての今の同窓会では、会費の納入率(8分の1)が悪いにもかかわらず、全卒業生(約24000人)に対して会誌を印刷し送るための経費だけでも事業費の多くを占め、成果を求めることもできない状態です。一般社団法人化することで、卒業生としての責任を明確にし、また享受できるものも明快にしていこうと考えています。

それが、会員(正会員)の条件に、卒業生であることに加えて、会費納入者であることを条件に加えて、その対象者を一般社団法人同窓会の「正会員」とします。当然会誌や総会参加などの権利とともに、同窓会事業への参加と責任もあることとなりますので、より関心を持って積極的に参加いただけるものと考えています。

会費納入者つまり新しい一般社団法人同窓会の正会員は現状のままで約3000人です。

正会員制度の導入で、本部が会費納入のお願いすることばかりを言うのではなく、正会員を増やすという活動になります。情報の出入りがある正会員を増やすのです。

では、「会費を払わない同窓生」や「会費を払わなくてもいいと思っている同窓生」そして「同窓会の存在すら知らない同窓生」は、新制度では会員ではありますが、正会員ではなく、「準会員」として登録され、「全会員総会」には出席することができないという形になります。「準会員」は会員には違いないのですが、活動対象ではなくなりますので、「目的」の項にある、同窓生の活躍を知らせるといった対象者にはなりにくいのは当然です。会誌や



HP記事で情報で取り上げた時は、その人は、きっと準会員から正会員になられていることでしょう。

この他、学生会員・特別会員(同窓生ではない大学関係者)・特別賛助会員・賛助会員・名誉会員などを設定しています。会の経済的運営基盤づくりにご協力いただける体制にします。これらの方々を全部含めて、一般社団法人同窓会の「全会員」と呼びます。

「正会員制度」は、東工大や名工大など、すでに一般社団法人化している同系の大学同窓会にも採用している制度であることも参考に新定款を構築しています。

「代議員」制度の導入 (社団法人法上の「社員」の定義を設定します)

議決や運営に関しては、「正会員」全員が総会会場に集まり会議をすることは、数字的に現実的ではありません。一般社団法人の法律では、総会は「社員(正会員ではありません)」の半数の出席(委任状を含め)を必要とし、議決はその過半数であることが決められています。総会運営上、正会員【現状では3000人程度】の中から「代議員」を決めて、その人を、運営上の、また法律上の「一般社団法人の社員」と設定しなければ、行動が

できません。ちょっとややこしいのですが、会員と社員の違いをご理解ください。

そこで、正会員の中から 100 人程度を選任していただき、「代議員」として同窓会の事業を決定していくことになります。選任母体を理事会で明確に作り、それを基礎に選任します。もちろん自らの立候補で代議員になることもできるように考えています。現行組織で増えつつある「支部」組織。これは地域ごとに同窓生が集まり行動する実行型の同窓会です。また卒業学科単位での集まりで活動する機会が増えてくれることも期待していますが、これを「部会」とします。この2つの組織を代議員選任の母体とします。

ただし、現状ではまだまだ纏まりはなく、設立されていない地域「支部」や「部会」が多いですから、初期段階では、人数あわせのためも含め、代表理事(理事長)や理事からの推薦、や、個人的にご自身での立候補することもできる仕組みになります。なお、現状の任意団体同窓会での「部会」制度では、親睦会的なサークル活動や、何かをやりたい人のための研究会などと学科単位の部会との混乱もあり、新制度ではそれを区別し整理します。バランスよく「代議員」制度を推進していきたいと思えます。この「代議員」制度は、会員数の多い会組織が法人化する場合に、よく採用している制度で、「評議員(会)」という名称を使っている団体もあります。

5 理事の人数適正化

理事会とは、実際に事業内容を考案し決定していく組織です。「代議員による社員総会」において選挙で選ばれた人が「理事」となり、理事会を構成します。任意団体は、代表者一人が会全体の会計責任や事業責任も背負う仕組みですが、社団法人では、少なくとも理事までが、その事業責任の一端を担うこととなりますので、明快、公平かつ安全な組織運営になります。選挙方法は定款ではなく内規とし、実際の状況に応じて変更していきます。

一般的には、意思決定や実行が軽快に行なえる人数ということで、50 名程度までが適切である、と公証人の方に指摘されています。本法人でも、定款で 50 人以内ということにします。また大学職員と一般同窓生の人数バランスも考慮しなければなりません。定款としては設けていませんが、内規で決めておくことも必要でしょう。(新理事会・社員総会で決定します)

6 「幹事」(会)による実行部隊の実働体制

現在の任意団体の同窓会会則では、総務委員会という組織があり、そこが立案・決定・実行をする運営方式になっており、他の委員会や理事会は作業部会的役割でしか活動できていないと言われてきました。一般社団法人法では、総会が最高の決定機関で、理事(会)が実行機関になっています。しかし、地域が広範で組織が大きな社団法人では、実行部隊としての「幹事(会)」を設ける規定を作ることがあります。

「幹事」は理事会で選出された理事長(代表理事)の指名により選ばれます。幹事は事業の企画運営のために「委員会」を設置し、実務行動を行なう体制になります。これまでの総務委員会では偏りがちな組織を明快にし、議事内容を広め組織内に伝えるためにも、各委員会の前に幹事会で内容の審議をすることにします。

7 支部(地域単位の下部組織)と部会(学科単位の下部組織)の適切な設定

4項の細説になりますが、本法人は、京都に本部を置く組織です。その下部組織として、これまでは「支部」と「部会」があります。「部会」が学科単位のもの、クラブ活動や同好会的なモノが渾然としていましたので、正式な下部組織としての支部と部会を設置します。しかし、実際の活動が活発である、同好会的活動をさらに活発化し、同窓生の交流を深めるために、研究会(専門の研究を行い、将来同窓会の事業とすることも可能な研究集団を言います)とサークル(大学時代のクラブ活動の延長のOB会サークルと、ゴルフ界や詩吟会などのような、趣味のサークルの2種があります)を発足し、理事会により承認したサークル団体にも同窓会名が使える組織として認定します。支部と部会は、代議員を選出する組織として位置づけられますが、研究会とサークルからは代議員を選出することができません。これらは、同窓会の実行下部組織ですから、本部会計から予算設定により一定の資金の支援を受けることができる体制とします。しかし、各下部組織の運営費用は、一般社団法人会計管理とは、合算しないという独自会計方式を採用します。それは、支援金額が一定額であることと、下部組織の会計処理を待つから本部の処理するやり方では、社団法人法上の会計処理に時間的無理が生じることが明かであるからです。他の社団法人を見ても、困難であることから、判断したものです。しかし、各組織においては、できる限りの正確な会計処理ができるように、本部からの支援をするということにします。

8 「寄付金」制度の正式な導入

会計管理・財務管理などは、一般社団法人法に基づいた処理をし、報告をしなければなりません。任意団体では、どこかに報告書を出すわけでもなく、外部から内部監査を受けるわけでもなく、監査役である会員の一人が事業や会計の監査を行い、チェックを行い総会等で報告するだけです。もしも代表理事が勝手な処理の仕方をして、わからなくなる可能性があります。社団法人ではしっかりした管理監査体制が必要です。

この金銭処理を確実にこなすシステムを持つことにより、外部からや内部からでも、寄付金を頂くことができます。定款に寄付行為を明記します。

例えば、よくある例は、同窓会会館等を持つことを考えると、事業費ではできるものではありません。将来の同窓会をいい方向に発展させ、活発で明るい組織にするために、このような制度を盛り込んでおくことができるのが一般社団法人法でもあるわけです。新定款においても採用をする予定です。



以上ですが、これでも分かりにくいことや疑問があると思います。法律は一度作ったら終わりではありませんので、状況に応じて定款を見直すことになると思います。

ただし、最初にできるだけ熟慮して作らないと、穴だらけの定款では、意味がありませんので、

皆さんもじっくり検討ください。現在の案は、改定した新同窓会ホームページで(案)の全文を載せています。事務局に問い合わせいただければ、メール等でお送りすることもできます。

KIT 同窓会 定期総会及び懇親会報告

前総務委員長 森 肇
(蚕糸生物学科 昭和57年卒)

KIT 同窓会 定期総会

平成26年6月28日(土)16時から約2時間ウェスティン都ホテル京都「比叡の間」において、三好 明会長以下64名の出席者の下で定期総会が開催されました。

議長に三好 明会長が選出され、開会あいさつの後、総務委員長から、平成25年11月16日及び平成26年6月14日に開催された KIT 同窓会理事会の報告が行われ全会一致で承認されました。

また、森迫大学法人理事・副学長から、海外インターンシップ及び若手教員への支援に係る謝辞及び現状報告がありました。

続いて、4委員会の検討状況が、中村副会長、伊藤副会長、蔭山副会長、谷垣副会長からありました。

以上の報告の後、以下の議題について審議を行いました。

1. 役員を選出

任期満了に伴う役員の変更が行われ、次の通り全会一致で承認されました。

会 長：中村 淳 氏 (新任)

副 会 長：小角 亨 氏 (新任)

杉本一郎 氏 (新任)

谷垣弘明 氏 (再任)

藤沢寿郎 氏 (新任)

理 事：学内教員理事21名を含む132名
(氏名等略)

監 事：遠藤久満 氏 (再任)

福井忠勝 氏 (新任)

顧 問：松原藤好 氏 (再任)

本城博一 氏 (再任)

三好 明 氏 (新任)

専務理事：志賀 均 氏 (再任)

2. 平成25年度事業報告について

審議の結果、原案どおり全会一致で承認されました。

3. 平成25年度決算報告について

議題4の平成25年度会計監査報告と一括審議されました。

4. 平成25年度会計監査報告について

村田会計担当理事から、平成25年度収支決算書(案)及び平成25年度貸借対照表(案)について資料に基づき説明があった後、遠藤監事から4月18日に西村監事と共に会計監査を行い、領収書、帳簿、預貯金通帳及び現金について、逐一照合し、精査した結果、異常は認められなかった旨の説明があり、審議の結果、原案どおり全会一致で承認されました。

5. 平成26年度事業計画(案)について

以下に掲げる事項について、審議の結果、原案どおり全会一致で承認されました。

(1) 理事会開催

(2) 定期総会及び懇親会開催

(3) 会則の一部改正

(4) 役員選出：任期満了に伴う会長以下の選出

(5) 会誌第8号の発行(卒業生、在学生及び教職員に配布)

(6) 会員名簿の維持管理：会員(約31,200名)データの有償管理

(7) 同窓会名簿の発刊

(8) 同窓会ホームページの維持管理

(9) 卒業記念品の贈呈：「学位記」証書ホルダー

(10) 教育支援：「KIT 同窓会教育支援事業」

(11) 若手研究者助成：大学若手研究者への支援

(12) 支部・部会の支援：新規団体の承認及び活動費の支援

(13) 講演会開催予定

(14) 学生行事の支援：松ヶ崎祭などの学生行事の支援

(15) その他

①海外インターンシップ補助、②総務委員会の開催、③4委員会の開催、④法人化検討委員会の開催

6. 平成26年度予算(案)について

審議の結果、原案どおり全会一致で承認されました。

7. 支部・部会について

2支部(熊本県支部、愛媛県支部)1部会(硬式野球部 OB・OG会)の承認並びに平成26年度の支部等支援金について、審議の結果、全会一致で承認されました。

8. 会則の一部改正(案)について

KIT(ケイアイティ)の読みカナの付与及び所在地記載の一部改正について、審議の結果、全会一致で承認されました。

9. その他

なし

三好 明会長から、2か年間の会長職に係る各位のご協力に感謝する旨の謝辞と、中村 淳副会長から議事進行の協力及び出席者に対する謝辞があり、平成26年度総会が閉会となりました。



KIT 同窓会 懇親会

平成26年6月28日(土)18時から約2時間ウェスティン都ホテル京都「愛宕の間」において、三好 明会長以下67名の出席者の下、盛大にKIT 同窓会懇親会が開催されました。

三好 明会長の開会あいさつの後、来賓の方々の紹介（京都工芸繊維大学長古山正雄様、元学長木村光佑様、前学長江島義道様、理事・副学長森迫清貴様、理事・副学長松野謙一様、副学長大谷芳夫様、理事・事務局長小原康伸様、企画調整役小牧靖昌様）がありました。

京都工芸繊維大学長古山正雄様から来賓代表の祝辞と、大学の1年間の主な出来事の紹介があった後、元学長の木村光佑様に乾杯のご発声をいただき懇親会が始まりました。

会員各位の懐かしいお話を交え大変盛会の中

で懇親会が進み、最後に恒例となっている参加者全員で学歌斉唱を行い、中村 淳副会長の中締めのご挨拶で懇親会がお開きとなりました。



KIT 同窓会関東支部の活動

関東支部長 市野 要 助

(機織工芸学科 昭和43年卒)

1. 魅力的な同窓会・活性化策

KIT 同窓会関東支部が設立されて以来、3年目です。この間、支部長として、役員会を運営して参加者の増加を図り、会の発展を目指していろいろと工夫して参りました。KIT 同窓会関東支部 facebook (詳細は下記参照) を開設し、1都6県、甲信越、福島、静岡東部、の通常活動域に加え、インターネットサービスを通じて全国、全世界で活躍されている KIT 同窓生各位に参加を広く呼び掛けております。昨年度は、広報活動を一層活性化させるために、新年会で参加された同窓生各位には、全員、広報担当の役員となってもらって役員活動をして頂けるように会則を修正しました。また、発起人・役員に新規の同好部会を設立してもらい部会長として活動して頂き、KIT 同窓会関東支部全体の輪を楽しく広げてもらえるように致しました。なお、各部会の活動は林事務局長が取纏役として管理すること、役員会では各部会長が活動を報告し、穏当な範囲内の活動となっているか確認できること、としてモラル維持等にも配慮しております。

どこの大学も卒業生の集まりが薄れていくようで、活力に溢れたいくつかの有名大学は別にして、いずれも20代~40代の働き盛りの年代の集まりが薄いようです。KIT 同窓会もご多間にもれず、KIT 同窓会関東支部も苦慮しております。名案はなく地道に努力していくことを期しております。

2. 新年同窓会

2015年1月16日、定例の新年会が霞が関・Sign で開催されました。同窓会本会から中村 淳会長、杉本一郎副会長が来賓され、旧来の参加者メンバーに加え、衣笠同窓会関東支部長の城野敬二氏をはじめ、古野勝也氏、木島式倫氏、原 茂樹氏、北野律夫氏、等々の新しいメンバーの参加があり、ともに昔の懐かしい話から同窓会の行方を案じて今後どうして行くべきか等の議論が伯仲して参りました。

中村 淳会長からは同窓会新名簿を有効に活用すべきだとのお話があり、個人情報を尊重しつつ、当支部の事務局でもトライしてみたいと担当の

林 佳輔事務局長は前向きに答えておりました。

3. KIT 連携の勧め

母校は、国立大学機能強化18大学の一つに選定されたようです。先生方のご努力に感謝し、産業界、地域のバックアップ等によるところが大きいとも思います。OB 各位のさらなる支援協力が望まれるところでしょう。

さて、KIT と略称される大学は、霞が関・界限では霞が関にサテライト大学院をもつ金沢工業大学が有名です。KIT と略称される全国の大学各校との連携、例えば、九州工大、北見工大、金沢工大等々との連携、で、さらにグローバルな活動を進めていくのも実りある将来に繋がる一因になるかと思えます。

小職も現在、日本弁理士会の知的財産支援センターの担当者として高専、工業大学の知財教育のセミナーに北海道から九州まで出向いております。農工商業・地域産業の核として地域の高校、高専、大学が地方創生の中心核として地場産業と一緒に機能していることがよくわかります。

また、日本弁理士会パテントコンテスト委員会委員長として、次世代の日本を担っていく青少年の創造性の育成のために尽力し、文部科学省、特許庁、INPIT と共催で、パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト表彰(表彰委員長 毛利 衛氏)にも携わっております。

4. 関東支部 facebook と事務局

都区内・霞が関界限で、新人歓迎会兼役員会を適宜おこなっております。

事務局と facebook の管理運営を事務局長：弁理士 林 佳輔 担当：特許業務法人高橋・林アンドパートナーズ/高橋雄一郎法律事務所
電話：03-5711-8154

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-24-2

損保ジャパン蒲田ビル9階

E-mail : hk@tylaw.jp

URL : <http://www.tylaw.jp>

KIT ブログ : [//www.facebook.com/home.php#!/kitdousoukaikantoushibu](http://www.facebook.com/home.php#!/kitdousoukaikantoushibu)

平成26年度 KIT 同窓会東海支部総会開催される

東海支部副支部長 野崎 駿 吉

(窯業工芸学科 昭和44年卒)

平成26年11月29日(土)、昨年と同じく名古屋駅前「ウインクあいち」にて、KIT 同窓会東海支部総会および講演会が、そして場所を北京料理「百楽」に移して、懇親会が開かれました。本年度は、東海地区の会員74名に、大学から古山学長、森迫副学長、同窓会本部から中村会長、小角副会長、森本総務委員長の5名の方が参加され、過去最大の79名の参加者を数え、盛大に催すことができました。今回の参加者の特徴は、現役世代(65歳以下、1971年以降の卒業年次の方)が全参加者の80%を占めたことでした。

福永支部長の挨拶に引き続き、来賓の古山学長、中村同窓会長のご挨拶の後、審議事項に入り、平成25年度事業報告、会計報告が満場一致で承認されました。

講演会は、初めにトヨタ自動車(株)の常務理事澤良宏氏(昭和55年意匠工芸学科卒)から「もっといい車づくり」のためにという表題でトヨタ自動車のデザイン戦略を話されました。そのポイントは、リーマンショックを契機に、万人向けの車種構成・デザイン企画をやめ、発売時の顧客の要望に応えるべく、60%の人が嫌でも残りの40%の人に受け入れられるデザイン戦略に切り替えた。機能を形にしたレクサスのスピンドルグリルはその事例であり、同時期に出現させることでインパクトを与えた。トヨタブランドではスポーツタイプの86は、発売当初は、中高年層が購入し、中古車を若年層が購入すると思っていたが、現在、若い世代の新車で

の購入が増えている。等々、我々の視点ではわからないトヨタ自動車の戦略を垣間見ることができました。

続いて、古山学長から、「京都工芸繊維大学の現状と将来」という表題で、ご講演頂きました。本年、文部科学省のスーパーグローバル大学37校の1つに選ばれ、世界に向けて発進する大学の現状を話されると共に、これからの大学の形を変える計画が話されました。概要は小規模校の特徴を生かして3年計画で達成し、真にグローバルな大学を目指すというものでした。講演の後の質疑応答で、会員から就職を考えている学生に対し、会社訪問やインターンシップだけでなく、卒業生の体験談を聞かせて、社会人としての意味を知らしめる機会を作ったかどうかという提案がありました。

午後5時30分からは会場を北京料理「百楽」に移し、懇親会が開かれました。副学長の森迫様の挨拶乾杯に引き続き、同窓会副会長の小角様の挨拶がありました。しばし歓談の後、恒例の1分スピーチで、会員の近況を話して頂きました。懇親会は盛会のうちにお開きとなり、畑副支部長の中締め、その後全員で学歌を歌い、記念写真を撮って、無事終了しました。

東海支部では恒例行事である総会を毎年11月の最終土曜日に開催を予定しています。本年度は11月28日(土)に、同じ会場(ウインクあいち)で開催します。多数のご参加をお待ちしています。



KIT-KINKI 第2回総会・セミナー・懇親会のご報告

近畿支部幹事会

(支部長 前川輝彦 繊維化学科 昭和35年卒)

開会	;	司会進行
開会あいさつ	;	支部長挨拶、役員紹介
平成26年度事業報告		
議案 1	;	活動報告
議案 2	;	一般会計決算報告
議案 3	;	特別会計決算報告
議案 4	;	会計監査報告
平成27年度事業計画		
議案 5	;	会則の変更
議案 6	;	活動計画案
議案 7	;	予算案
閉会あいさつ		



■第1回同窓生による KIT-KINKI セミナー
株式会社ワコール坂本晶子氏 (応用生物学科 H2 年卒)

■写真全て・小櫻武彦 (養蚕学科 S38 年卒)



- H27年2月8日
ホテルルビノ京都堀川
- 前川支部長挨拶と議事進行
- 来賓森本副学長挨拶
- 懇親会中村同窓会会長乾杯
- 全員集合写真



京都工芸繊維大学同窓会（KIT 同窓会）設立 “てんやわんや”

愛媛支部 世話人 家村 真之

（養蚕学科 昭和45年卒）

愛媛県は、衣笠同窓会愛媛支部として長年活動を続けてきましたが、近年は、ご多聞に漏れず高齢化の波が押し寄せ同窓会への出席は10人チョイがほとんどでした。我が愛媛県の三原支部長（昭和31年繊維化学）は、“どげんかせんといけん”と愛媛県在住の会員掘り起こしを叫んでいたところです。

愛媛の会員掘り起こしがにわかに現実味を帯び出したのは、時の京都工芸繊維大学江島学長から「京都工芸繊維大学教育研究 松山交流会」の提案があり平成23年11月2日松山東映ホテルでの開催が決定いたしました。

この交流会は、京都工芸繊維大学が、これまで蓄積してきた知的財産、教育研究活動の成果や状況、将来像等を広く紹介し、本県関係者の意見も吸い上げ、大学の更なる発展の契機とするために開催されたもので、江島学長・竹永副学長・本城KIT会長・三好・谷垣副会長・松原顧問（衣笠同窓会長）・弓削秘書・新井入試課長・森本総務委員長・河原専務理事補佐の総勢10名。迎え撃つは、本県三原支部長・善家副支部長ほか12名。

当日、学長からあいさつ、講演があり、基金への協力・大学の宣伝・受験生の確保等の密命が下されました。

この後、懇親会に切り替え和やかな内にあるという間の2時間でしたが、この交流会がKIT同窓会愛媛支部設立の重要なきっかけとなったように思われます。

この交流会以降、2013年6月26日松山で衣笠同窓会を開催、KIT同窓会本部（KIT同窓会支部活性化委員会）の意向を受け愛媛支部の立ち上げを決定したのはごく自然の流れでありました（本県三原支部長も活性化委員）。

それから、三原支部長、善家副支部長他4人が世話人となりボチボチやり始めました。

世話人会は、最初に本部が把握している愛媛

県在住者99名（衣笠43名、工大56名）の賛同者の特定を模索しました。

世話人から会員に対し、支部設立趣意書を送付するとともに、三原支部長自ら電話大作戦を展開、賛同者を募ったところ従来の衣笠同窓会会員15名に加えて新たに16名の方の同意を得て31名の名簿が出来上がりました。

その後、規約の作成、会費徴収、役員の選任等、「ああでもない」「こうでもない」と紆余曲折、世話人会を繰り返してまいりましたが、特に役員については新会員からもなっただく必要がありますが、顔も解らない状態で、電話でのやりとりのみ、三原支部長の頑張りもあって何とか曲がりなりにも会員名簿、規約（案）役員選任（案）を含め総会資料の作成まで漕ぎつけるのに“てんやわんや”でした。

設立総会は平成26年5月17日(土)17時から JAL シティー松山で、会員31名のうち14名、来賓3名計17名でスタート。

準備した議案も一応異議なく承認され、即懇親会へ。

スペシャルゲストの森肇副学長および本部三好明会長にごあいさつをいただき、中村淳副会長の乾杯の音頭で和やかな内に約2時間、善家副支部長のおひらきで散会しました。

今後は、旧工大会メンバーの参加者増を愛媛支部の重要な課題としたい。



京都工芸繊維大学同窓会 熊本県支部設立

幹事 中西 憲 弘
(養蚕学科 昭和51年卒)

熊本におきましては、本学の同窓会組織として、旧繊維学部の衣笠同窓会熊本県支部が在り総会や懇親会を催し会員相互の懇親を図っていましたが、大学全体の同窓会組織は存在していませんでした。

今回、支部設立に当たっては、同窓会本部のご指導を賜り、特に支部設立趣意書の送付、返送、取りまとめを図られ、その集約したものをこちらへいただきました。それを元に支部設立準備会を設けて県内の各同窓会員へ連絡し、同窓の方々の同意を得て支部設立と至ったわけです。

設立総会は、平成26年4月6日に熊本城二の丸の「加藤神社」会議室におきまして、本学から森副学長、三好同窓会長、松原名誉教授（熊本県出身）の臨席を得て開催し、会員53名を擁する熊本県支部の設立を決定しました。

また、議事では、規約の承認に続き、役員として会長に川上正人氏（養蚕44卒）、副会長に坂口 康氏（養蚕32卒）、岡 博司氏（生機44卒）、理事4名、監事2名、幹事4名を選出し、顧問として高木正男氏（養蚕14卒）、宮本寛治氏（養蚕29卒）に就任願いを承されました。さらに、平成26年度収支予算(案)の承認も得ました。

総会終了後、同会場におきまして懇親会に入り、大学や同窓会本部の近況をうかがうとともに、熊本でのこれまでの出来事や、各自の近況の披露等で楽しい時間を過ごすことが出来ました。圧巻だったのは、年齢差が60年程の違いを物ともせず会話がスムーズに進展していたことは、同窓会ならではの思い出です。

今後、さらに同窓会員の掘り起こしを進め会員の増加を目指すとともに、会員相互の親睦や連携を図っていきたくと考えます。

「加藤神社」…加藤清正公をお祀りする神社です。故 湯田名誉宮司が本学の同窓であったため、毎年同窓会会場として利用させていただいています。

KIT 同窓会浜松支部 (浜松工織会) 便り

浜松支部 上野 宏 史
(機械工学科 昭和50年卒)

浜松支部は平成24年9月15日の KIT 同窓会本部理事会にて KIT 同窓会支部として承認されましたが、1979年の浜松工織会としての発足当初より工芸と繊維合同の同窓会として活動を続けています。以前は会則にて年会費を定め、その収益金や工大会本部援助金さらには会員所属企業等のご協力にて母校から先生を総会にお招きし講演をして頂くなど活発な活動をしておりました。しかしながら同じ地域に住む同窓の親睦を深める為の会でありながら資金管理の面もあり『総会』形式となりどうしても堅苦しさの抜けない雰囲気や若い方々にとって魅力の欠ける会となっていました。

この課題に対し10年ほど前に浜松工織会としての年会費徴収を廃止するとともに会の運営も『懇親会』中心とし、同じ地域に住む同窓メンバー間の異業種交流と年代を越えた情報交換を軸に絆を深められる場として今は活動を続けています。現在の課題は個人情報保護法施行後は新規会員の把握が難しく若い世代への情報発信が出来ない事、一方で中心となって会の運営を支えて頂いてきた諸先輩の高齢化により懇親会参加メンバーをなかなか増やせない事です。

昨年の懇親会は10月25日に開催し8名の参加と少々寂しい人数でしたが3時間程があっという間に過ぎるほど楽しい時間が持てました。会では若い世代の方々に気軽に懇親会に出て頂けるよう KIT 援助金で若手参加費を安くするなど工夫をしていますが残念ながら昨年は若手の参加がなく今年に資金繰りとなりました。今年も秋に懇親会を開催し若手の方々には格安で参加頂けるように致しますので静岡県西部在住となられた若手 KIT 会員の方々からの情報連絡ならびに懇親会への参加是非とも宜しくお願い致します。

E-mail : uenoh@yec.co.jp

ヤマハモーターエンジニアリング株式会社



衣笠同窓会の近頃の活動と課題

衣笠同窓会 会長 三好 明

(繊維化学科 昭和31年卒)

平素は衣笠同窓会の活動にご理解、ご活躍を賜りまして有難うございます。衣笠同窓会はKIT同窓会の一部会として活動していますが、最近の活動と課題について述べます。

1. 大学の繊維への取り組み

平成25年度は、衣笠同窓会にとって記念すべき年でした。文部科学省より繊維に関わる研究論文が世界的水準にあり、この専門分野の教育研究組織の再編・整備、機能の強化を図ることが求められました。古山学長先生、森副学長先生をはじめ各位の永年にわたるご努力の積み上げによるものと、感謝申し上げる次第です。

学長先生は工織大の繊維教育研究の重点志向を繊維業界、KIT同窓会、その支部部会へ、不退転の宣言をされています。事実「すごいぞ繊維塾」(講師 日本の繊維地場産業界の12人のトップ 主催大学先端ファイブプロ科学部門)や工織大繊維科学センター講演会(主催大学繊維科学センター)の取り組みがありました。

工織大の地域の核としてのアクションは、京丹後市の「量と質の両面から養蚕業を創生」プランが認定される成果を得ました。このプランは純丹後産織物の生産と工織大の工場周年養蚕にかかわるものです。地域活性化のための産学官連携が動きはじめました。

2. 衣笠同窓会の新組織 4つの委員会

私は衣笠同窓会とKIT同窓会の会長を、平成24年度より担当致しました。衣笠同窓会の基盤創りのため4つの委員会を設営しました。総務、組織・人事広報、事業の4つの委員会は4人の副会長が委員長となり理事、会員より委員を募りました。平成24年度に衣笠同窓会はKIT同窓会の支部として承認されました。

3. KIT同窓会支部統合の推進とKIT会員名簿の作成

KIT支部統合の推進には、衣笠同窓会のほぼ全国都道府県にある支部が核となって推進することになります。平成25年度、衣笠同窓会全国支部長会議を開催し、統合について審議した結果予想以上に会員情報が不足していることが明

瞭になりました。この充足のために、KIT同窓会の会員名簿を10年ぶりに作成することになりました。この2年の間に6支部、8部会の成立を見ました。

4. 広報の充実とIT化

広報関連では執行部と支部との情報伝達不足を認識し、IT化を積極推進することを決めました。衣笠同窓会の活動をいち早くHPを通じ双方向に伝えられるようにしていきます。一方、会員限定の更新システムを組み入れていきます。休刊していた衣笠同窓会会誌をスポットで発行することを検討します。旧衣笠同窓会会誌の恒久的保存のため電子化を立案します。

5. 「次世代型繊維への挑戦」講演会の開催

平成24年から26年の3年、各年「次世代型繊維への挑戦」と題し、衰退している繊維の復活を願って講演会を行ってきました。平成26年度はスパイバー(株)社長関山和秀氏の「QMONOS実用化への挑戦」、工織大教授 木村照夫氏の「シルクコンポジット」、工織大理事・副学長 森 肇氏の司会による「バイオプラスチックの将来」についてパネルディスカッションを行いました。

古山学長、理事の経営陣をはじめ大学各位は、新たなミッションに精力的に取り組んでおられます。母校を国立大学ランク上位に安定的に飛躍させるために、衣笠同窓会会員としても大学を支援して行きましょう。



平成26年度講演会「次世代型繊維への挑戦」— 蜘蛛と蚕で描く新しい繊維の世界— パネルディスカッション
向かって左より 森副学長・関山社長・木村教授

「色染物質会」の活動報告

色染物質会会長 佐藤 忠孝

(色染工芸学科 昭和34年卒)

平成22年4月、旧色染会の解散後に新しく発足した色染物質会も4期終盤に入り、来4月には5期目を迎えようとしています。今期の活動実績及び計画は下記の通りです。

- 1) 会誌5号発行 2014年4月
(A4版32ページ)
- 2) 第4回総会、懇親会開催 6月
於 ホテルセントノーム京都
26名参加
- 3) ゴルフコンペ 10月
於 枚方国際ゴルフ倶楽部
10名参加
- 4) HP の更新 逐次
(今後の予定)
- 5) 新年会 2015年1月
於 京都タワーホテル
- 6) 散策会 2月

期中若干の加入及び退会者がありましたが、会員数は200余名と横這いで推移しています。総会、懇親会は利便性から京都駅近くのホテルに設定し、開催時期も従来の11月から比較的「集

い」の少ないと思われる6月に変更したせいか、昨年を若干ですが上回る参加になりました。HP 関連は訪問者数が開設以来延べ2万人に達し関心の高さが窺われます(4千人/年)。

投稿欄では「クラス会便り」が数多く寄稿されていますが、クラスが固定化されている傾向にありますので、未投稿のクラスからの寄稿が望まれるところです。会員各位のご協力をお願いする次第です。



KIT ゴルフ会近況報告と会員募集

幹事 谷垣 弘明

(製糸紡績学科 昭和43年卒)

KIT 同窓会の会員の皆様 KIT ゴルフ会の近況をご報告申し上げます。

KIT ゴルフ会は衣笠ゴルフ会とマコーンゴルフ会がその基盤となりKIT 同窓会の部会として発足しました。

近畿圏のゴルフ場で会員の老若男女20歳から90歳までの100名余りの会員を擁し年2回春と秋の定例コンペを開催しております。

最近のトピックスとしては、第10回の記念大会において機織43年卒の松原衛氏がホールインワンの快挙を達成されました。右記にその認定証とスナップを挿入します。



	日付	場所	優勝	準優勝	3位	4位	5位
第1回	平成21年11月25日	瀬田西	中田庄三郎	柴垣 忠雄	佐藤 彰宏	黒田 清伸	外園 涉
第2回	平成22年 3月29日	瀬田東	森川 正生	外園 涉	中田庄三郎	大野 耀也	北浦 滋夫
第3回	平成22年12月 3日	瀬田東	森橋 俊文	中田庄三郎	山田 英二	藤原 昇	田中 博
第4回	平成23年 4月14日	瀬田東	坪井 弘光	森橋 俊文	田中 博	中田庄三郎	北浦 滋夫
第5回	平成23年10月18日	瀬田西	田中 博	川崎 登也	寺田喜代嗣	山崎 達夫	藤原 昇
第6回	平成24年 4月14日	瀬田西	坪井 弘光	矢井田 修	田中 博	谷垣 弘明	山崎 真吾
第7回	平成24年10月18日	瀬田西	北浦 滋夫	藤井 敏昭	坪井 弘光	山崎 達夫	森川 正生
第8回	平成25年 4月11日	瀬田西	田中 潤	松原 衛	田中 博	神吉 司	森橋 俊文
第9回	平成25年10月17日	瀬田東	森橋 俊文	黒田 清伸	中村 淳	北浦 滋夫	山崎 達夫
第10回	平成26年 4月17日	東城陽	奥村 忠司	尾野 凱生	田中 博	澤野井裕文	中田庄三郎
第11回	平成26年10月22日	滋賀カントリー	山崎 真吾	松原 衛	森橋 俊文	小角 亨	中田庄三郎

入会希望者は 森橋(090-3266-6094) 谷垣(090-5152-5824)

京工大機織会 (マコーン会) の活動

マコーン会事務局長 大庭輝彦
(機織工芸学科 昭和37年卒)

平成26年の京工大機織会(マコーン会)の活動状況について報告します。

- 1) 平成26年3月5日(水)役員会：年2回発行の「マコーンニュース」No.93(A4サイズ、36ページ)が出来上がり会員約400名への発送作業と、平成26年「定時総会」の準備について打ち合わせをしました。
- 2) 平成26年4月16日(水)クラス幹事会：大阪第一生命ビル地下2階の「ニュートーキョー」に、各卒業年度のクラス幹事合計25名が集まり、「定時総会」への出席予定者の確認と更なる増員の勧誘を計りました。
- 3) 平成26年5月14日(水)役員会：「定時総会・懇親会」の最終準備と打ち合わせをしました。
- 4) 平成26年5月17日(土)定時総会：創立54周年「定時総会・懇親会」を「ホテルグランヴィア大阪」20階「名庭(A)」で開催しました。総会に先立ち「宋秀珍」神戸東洋医療学院講師による「東洋医学健康法」の講話と実地指導がありました。総会・懇親会には来賓・会員合計78名が参加して親睦を深めました。
- 5) 平成26年6月2日(月)役員会：定時総会・懇親会の反省点を話し合い、平成27年の「定時総会」の準備を開始し、更に「マコーンニュース」次号No.94の編集打ち合わせをしました。
- 6) 平成26年9月8日(月)役員会：「マコーンニュースNo.94」(A4サイズ、36ページ)の印刷、製本が出来上がり、会員約400名への発送作業をしました。
- 7) 平成26年11月4日(火)役員会：「マコーンニュース」No.95の編集打ち合わせをしました。
- 8) 平成26年12月10日(水)役員会：平成27年5月16日(土)に「定時総会・懇親会」を大学の「60周年記念館」で開催する事を決定し、総会前に「古山正雄学長」に講話をお願いする事にしました。又、「自由参加行事」の具体策を検討しました。その後、美術工芸資料館の見学に加え、平成24年「全日本学生フォーミュラ大会」総合1位のレーシングカーの「学生フォーミュラ部」による展示と「ギター一部」の演奏が盛込まれる事になりました。

交扇会(平成26年)活動報告

井上良一
(繊維化学科 昭和33年卒)

交扇会：平成2年から、神戸、大阪、奈良、京都、滋賀、名古屋、在住の会員10名から20名位が集まり、素謡、仕舞を楽しんでいる。

第43回は幕末の鳥羽伏見の戦いの頃の余韻を残す町家・臥水正庵で7月8日(火)に、第44回は琵琶湖の要・南郷洗堰畔の二葉屋で11月14日(金)に開催。例年、初夏と晩秋の開催を予定する。

<連絡先>

〒529-2144 大津市大萱2丁目34-1-112

電話 & FAX : 077-543-1850

井上良一

E-mail : r-inoue@themis.oce.ne.jp

東峰交扇会：交扇会の20回記念会を契機に埼玉在住の諸氏が糾合。大宮氷川の杜文化館能舞台を会場として年2回発表会を開催している。主たるメンバー(敬称略)は井関(C35)、飯田(S39)、山本(F39)、片田(S41)の諸氏。

第21回が3月21日に、第22回が9月24日に、第23回が平成27年3月15日に開催された。

<連絡先>

〒367-0021 埼玉県本庄市東台2-2-2

電話 : 0495-22-3471

飯田豊

平成25年、記念会を機に全国に展開している能楽部OBに声を掛け、66名のメンバーで部会として承認された。活動を各地に拡大することが出来ると、喜んでいる。全国各地に**交扇会が出来て、相互に交流したいものだ。

又、母校においては、消滅した能楽部を復活させる事にも取り組みたい。同窓会活動に関心のおありの諸賢のお知恵を拝借したい。

*竹本俊平氏(建42)の奥様が管理されているホームページがあります。

交扇会の活動状況をご覧くださいませ。

<http://www.geocities.jp/kousenkai>

京都工芸繊維大学剣友会の活動紹介

会長 中村 良 光

(生産機械工学科 昭和41年卒)

本会は母校剣道部卒業生の集まりで、昭和43年に発足し昨年45周年を迎えました。前身の高等蚕糸と高等工芸の卒業生も含め、現在に至るまでの剣道部在籍者およびその関係者（現在の会員登録：280名）で、最年長は80歳代から20歳代の大学院生までおよそ三代にまたがるメンバーで構成されています。

剣友会は、会員相互の親睦・交流を図るとともに、母校剣道部の発展に寄与することを目的として、現在も熱心に活動を続けています。

昨年の行事の主なものを開催順に紹介します。

①新年稽古会（1月5日）

剣友会発足当時からの行事で、現役剣道部諸君とOBと一緒に新年の稽古会を武道場にて行います。稽古の後は、各人の今年の抱負を語る懇親会を行っております。

剣友会としてはこの後新年懇親会を行いました。

②剣道部長記念大会（3月21日）

初代剣道部長の平瀬進工芸学部長を偲び、現役剣道部と、剣友会会員の混合個人戦が行われ剣道部長杯（平瀬杯）を目指して熱戦が繰り広げられました。今回は、現役1回生が並み居る先輩を倒して見事優勝を果たしました。



剣道部長記念大会・表彰式後の記念撮影

③会誌『剣友』第21号の発行（6月）

会員からの投稿や剣友会としての一年間の活

動状況をまとめて年一回会誌として発行をしています。

母校や京都地区で開催される行事になかなか参加が難しい遠方の方々や、当日都合がつかない方のためにも剣友会の活動を伝え会員相互の親睦・交流を図る一助としております。

④現役行事への支援（6月8日）

本学が三大学体育大会の開催当番校であったので、本学体育館にて剣道大会が開催された。現役諸君は、団体戦4連覇を目指して奮闘したが、惜しくも信州大学に勝者数で惜敗し準優勝となりました。会としても、会員に特別の呼びかけを行い多くの会員が応援に駆け付けてくれました。

⑤剣友祭（10月25日）

剣友会最大の行事で、「剣友会総会」「会員による講演会」「懇親会」「記念撮影」を行いました。今回は、本学『工織会館』にて約50名の参加を得て賑やかに開催いたしました。



剣友祭・総会の模様と参加者

平成26年度硬式野球部 OB・OG 会活動報告

責任者 山中 寛 城

(色染工芸学科 昭和37年卒)

硬式野球部 OB・OG 会 (以下、本会) は京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会) の1部会として、平成26年度に承認された新しい部会です。本会は本学の硬式野球部に所属した卒業生及びマネージャーを務めた本・他大学卒業生より構成され、会員相互の親睦を図るとともに京都工芸繊維大学硬式野球部の支援を目的としています。本会では毎年、OB・OG 会誌の作成・発送 (3月)、年一回の総会開催 (5月) と OB 現役親睦野球大会の開催 (11月)、さらに春期及び秋期リーグ戦に必要な費用を一部補助しています。



本年度の主な活動は以下の通りです。

1) OB・OG 会誌の発送 (3月) :

本学硬式野球部の状況や主将、監督、マネージャーの挨拶文を含んだ会誌に加え、春期リーグ戦の試合日程表、昨シーズンの戦績、総会の開催通知、および会費振込用紙を同封し、本会会員約220名へ発送しました。

2) 総会開催 :

平成26年5月3日午後6時より、京都工芸繊維大学内にあるプラザKITにて、①KIT 同窓会部会の申請について、②会則の一部変更について、③OB 会費について審議し、承認されました。また、①平成26年度春季リーグ戦の戦績に



ついて、②平成26年度の会費納入状況について報告されました。総会終了後は現役野球部員と共に懇親会を開催し、大いに盛り上がりました。

3) OB 現役親睦野球大会の開催 :

平成26年11月3日12時より京都工芸繊維大学グラウンドにて、現役部員とOBチームとの対抗戦を実施しました。試合結果は若手卒業生を含むOBチームが大勝しました。スナップ写真は野球大会時に撮影したものです。

4) 春・秋期リーグ戦の分担金補助 :

リーグ分担金は春期、秋期共に約40万円程度、年間80万以上は必要ですが、今年度は春期120,000円、秋期80,000円を本会より補助しました。



本職と空手道と両立できた喜び

中野 秀 男

(蚕業実科 昭和24年卒)

1954年母校に空手道部が発足。当時空手道は社会的なイメージが悪く、多数の教官から「中野君大丈夫か？」と何回か声をかけられ「大丈夫です！」と云いながら部ができた関係上、私の責任は重く部員と合宿に参加したりして楽しい思い出も多かった。

1969年は西日本国公立選手権大会で2連覇し、1984年には全国国公立空手道選手権大会で優勝した。ノーベル賞受賞の福井謙一学長は、理工系の少数学生の本学が、京大、東大、九大などの大きい大学によく勝ってくれた。参加することに意義があるというが、勝負は勝たなければならない。学問でも同じだ。と大変喜んで下さいました。

1968年は、大学紛争の最中で、一部の過激派学生が暴動を起こし「将来日本の青少年はどうなるのか？」と連日テレビなどで報道されていた。地域少年補導委員をしていた私は何かできることはないかと真剣に考えた。そうだ、空手道部員の性格が向上している。子供に空手道を教えよう。とボランティアで青少年空手教室を開設した。叱咤激励の指導をするよりも、誉めて指導すればヤル気になり吸収が早く優秀な選手が育ち、武士道の徳目を教えることでしっかりした青少年が育った。

小学高学年の頃、父の遊興で貧しく母と妹と僕のご飯を沢庵だけで泣きながら食べた。この苦難を乗り越えるには空手で培った不屈と努力しかない勉強し、京都府立医科大学に入学し医師になった。泣き虫のひ弱い子が空手で体力、気力が充実し、京都大学医学部大学院で研究に失敗したとき折れそうになったが、空手で鍛えた気力で完成し43歳で教授に。などの体験を本に「子供の生きる力の伸ばし方」を文芸社から出版した。定年退職後24年、今も夢ある少年たちと空手をできることは幸せな人生である。



全国国公立大学空手道選手権大会優勝
 一列目右から2人目 井上友一空手道部長、
 3人目 福井謙一学長

プラスチックのPRを

下村 康 夫

(養蚕学科 昭和33年卒)

私が岐阜プラスチック工業に就職したのは学校の卒論でお世話になった桑学の堀田禎吉先生の紹介によるものです。先生の実家が岐阜にあったお蔭だと思えます。

昭和33年学校の卒業式前から勤め始めたこの会社、社長 大松幸栄氏が大学の先輩（繊維化学科昭和22年卒）であり昭和28年に設立したもので当時従業員4、50名でプラスチック家庭用品を作っていました。

この頃のプラスチック業界というのは石油化学産業の黎明期で大手企業が合成樹脂の技術導入、生産設備会社の設立が盛んでした。岐阜プラスチックは昭和32年頃から成形に使用する合成樹脂を輸入品から国産品に切り換えています。成形法は射出成型に始まり以降次々と種々成形法を取り入れ、現在では家庭用品、産業資材、食品包装容器、工業部品、医療機器、運搬・建築資材等を生産しています。社長の先見性や積極性が成形業界のまとめに力を入れさせ、昭和48年日本プラスチック日用品工業組合を立ち上げ、翌年には全日本プラスチック成形工業連合会の長となり、その後も各種団体の括めに力を入れました。その度私は会社の仕事と並行してプラスチック製品の安全性、衛生性、性能の規格作りに関連する団体、国の省庁、工技院等の人達と共に手伝ってきました。

ここではプラスチック製品のメーカーと消費者との間に生じる問題点に直面する仕事が多かったので次の事を文部科学省や大学に望み度いと思えます。多岐に亘るプラスチックの用途の内、家庭で使われるプラスチックに絞り合成樹脂の種類、性能、用途、関連する法規（品質表示、食品衛生、リサイクル）等を中学・高校で扱って頂けるよう教育して下さい。消費者の皆さんに少しでも多くプラスチックの知識を持って頂き度いと思えます。

松ヶ崎の社寺仏閣

遠藤 宏

(養蚕学科 昭和34年卒)

大文字焼き五山の内の「妙」(松ヶ崎西山)・「法」(松ヶ崎東山)の山ふもとにある母校の所在地、松ヶ崎は、以前は田や畑、清流のせせらぎに彩られていて、誰もが懐かしさを覚える日本の原風景ともいえる地域であった。然しながら現在、かつての松ヶ崎の多くの田や畑は急激な宅地造成開発等により往時の面影を消失してしまった様だ。但し、この地域には数百年その姿を変えることなく、又今後もその有り姿を決して変えることは無いであろう、有名且つ貴重な社寺仏閣がある。気持ちよく晴れた、初秋の1日これらの社寺仏閣を巡り歩き、夫々の故事来歴を楽しませて頂いてきた。その中の3つをご紹介します。

ゆうせんじ 涌泉寺

所在：京都市左京区松ヶ崎堀町53

電話：075-722-1810

概要：当寺は大正7(1918)年、松ヶ崎集落にあった同じ日蓮宗の妙泉寺と本涌寺が合体して両者の寺名を取って成立した日蓮宗の寺院である。毎年行われる五山の送り火「妙」・「法」は地元の住民によって燃やされている。ここで特に注目されるのは当寺の本堂で、日蓮宗の本堂として、日本で最も古いものと思われる。また、日生上人の坐像は特に貴重なものである。



みょうえんじ

妙円寺・又は松ヶ崎大黒天

所在：京都市左京区松ヶ崎東町31

電話：075-781-5067

概要：このお寺は前述の「涌泉寺」の隣にあり五山の「法」(松ヶ崎東山)の真下にあつて、元和3(1616)年、日英上人が創設した際に、法華経の守護神として別棟に祭られたのが、七福神の内の一人である有名な「大黒さん」である。大黒さんは福の神であると共に、昭和44年に起こった火災に奇跡的に焼けなかったという事でそれ以降、火災の守り神ともなったのである。60日に1度の「申子の日」に「大黒さん」のご開帳が行われている。松ヶ崎小学校の校門の前を通り緩やかな坂道を登って行くと、厳かな妙円寺の本殿に迎えられる事になる。



しらくもいなりじんじや

白雲稲荷神社

所在：京都市左京区松ヶ崎東山34-1

電話：不明

概要：この神社も五山の送り火「法」で知られている松ヶ崎東山の南麓のすぐ下にあり、祭神として「稲荷尊・鬼子母神・牛の宮・法華経八巻」が合祀されているという。又、安産や火の用心の信仰がある。創建は不明であるが、松ヶ崎の伝承によると、その昔ご神託により井戸堀と牛の飼育が禁じられ、農家ではもっぱら馬が飼育され農耕に使われていたと言う。そのような事があった故か、近年(1914)まで祭りの日にはここの参道では競馬が行われていた。

以上大変簡単な案内で終らせて頂いたが、KIT 同窓会・会員各位も時には、日頃の激務や研究そして、PCの液晶板(LED)から離れて、懐かしい母校を訪れ、その近くに散在する社寺仏閣を巡り歩かれて、心と眼の安らぎを求められたら如何なものか。

シルク業界に生きて

山崎 達夫

(養蚕学科 昭和35年卒)

社会人のスタートは昭和35年、カネボウ本社での研修を終えて、茨城県結城工場の原料係として着任したことに始まります。世の中が安保条約反対闘争で騒然とし、その秋に池田内閣が「国民所得倍増計画」を発表しています。その頃から同窓生の就職先としての蚕糸関係への選択は少なくなって行ったのではないのでしょうか。

製糸業は第2次大戦の傷跡からの復興をいち早く成し遂げます。然し、戦後の食糧増産奨励策もあって工業原料としての繭の生産量が伸びず、製糸設備台数と原料のバランスを欠いたまま、近代化投資の一方で合理化と操短・縮小の厳しい道を歩むこととなります。同時に、時の二元行政と言われた農業政策と産業政策の狭間で翻弄され、製糸の事業運営は徐々に窮地に追いやられていきました。殊に、昭和47年の繭糸価格安定法による蚕糸事業団による「生糸の一元輸入」の発動は、製糸業の国内産業としての存立基盤を危うくし、生き残りを賭け大手製糸各社はブラジルやパラガイに進出します。それでも養蚕農家保護を優先する国の方針が、市場での自由な生糸価格形成と国際競争を阻害する事になり、川下の絹工業と共に製糸業の衰退を早めました。

そして明治、大正、昭和と日本の近代化、戦後の復興に貢献した製糸業は、平成14年に「日本製糸協会」の解散をもって、事実上、産業史の表舞台から降りることになりました。

昨年、富岡製糸場と絹産業遺産群が近代化遺産として世界遺産に登録されました。このことも重ね合わせ、シルク、天然繊維一筋に過ごした45年の歳月を顧みるとき、繊維を学んだ自分に課せられた何か運命的な使命ではなかったのかと思えてなりません。そして日本人の生活の中にあつた「絹」は何処に行ってしまったのかとの思いを深めています。

自分史からの教訓

森 實 弘 司

(養蚕学科 昭和35年卒)

これまでの私の人生の軌跡を名曲『川の流れるように』の歌詞を道案内人として、回顧の旅をして見ました。

染色体を顕微鏡で観察している時、ふと、染める、染まるという事に興味をいだいたのが起点である。昭和35年、たまたま、大阪府の公設研究機関に研究職（上級職染色部門に合格）で入所した。仕事の理念・役割は府下中小企業の技術支援・普及と指導・相談である。そして、研究所の位置づけは業界と大学・学会との中位（巡航）に属した感じがした。『技術は現場から』を目標に業務をしつつ、関連学会の企画委員、母校には新規計測器、試作試験機開発の指導、学生の当所への受験依頼、JIS 制定の検討委員会、業界向けの講演会の演者としてなどなど大いに助けていただいた。私ほど母校に足を運んだ者は居ないと現役時代は自負したものです。府下勤務地の転勤、移動も最多記録保持者、いつの間にか、研究所内では陰でジブシー森實と言われていました。本当に、無我夢中で動いていた。お陰で金持ちでは無くて人持ちと言われている。

54歳のとき、人間ドックで、頸部エコー所見で右内頸動脈血栓の疑い、これが真なら余命1年と、頸動脈 MR アンギオ検査で疑いは晴れた。この時、初めてこれからの自らの人生を考えた。30年来のライフワークの研究を完成したい衝動に駆られた。定年後の母校大学院博士後期課程に年金おじん学生の誕生である。テーマは染色挙動の化学ポテンシャルに基づく二元収着拡散機構による理論解析である。これは、伝統染色物理化学の進化に挑戦したのものである。今、青いせせらぎを聞く年齢に、この成果は、食材の味付けの科学（調理学）に使っていただいている喜びと、『遊への誘い』として繊維内の染料の二元の流れを小学生向けの動画の創作にパラパラ漫画の日を続けている。

わが青春、山の想いで

福西 興至

(色染工芸学科 昭和37年卒)

昨年9月、御嶽山の噴火で50名以上の方が犠牲となる大惨事が起きた。この山は学生するとき山岳部の仲間と何回となく登った山である。今回の噴火した地獄谷の下部の赤川、白川の合流地点にテントを張り、雪や氷の張りついた山腹を頂上目指して登ったこと、強風の中アイゼンを軋ませながら稜線を歩いたこと、また、この近くに無人の濁川温泉があつてぬるい湯ではあつたが一息ついたことなど思い出される。アメリカに滞在していた頃(1979)の噴火と今回の大噴火で、この近辺はすっかり埋まっているに違いない。御嶽山に水源をもつ王滝川源流を冬季に下る計画を立て、秋に印を付けておいた目印を辿って下るつもりが、雪に埋まり、ラッセルで悪戦苦闘して三浦ダムまでたどり着いた記憶、後輩の正木明雄君が凍傷で歩けなくなったことなど、御嶽山は青春の想いで深い山である。冬休みが始まるとすぐに冬山合宿に先輩に連れられ、京都駅から夜行急行ちくまに乗り、正月を山で過ごした。計画通りに行かず遅れることがあると親父から部長の新井清先生(後に奈良大学)に電話が行き、よく文句を言われたと後で聞き恐縮したこともある。

卒業した次の年、38豪雪で中央アルプスの空木岳で杉原一向君、北野正明君が遭難し、その捜索に参加し、茶毘に付した。苦い悲しい想いでである。歳をとり、顔、形はすっかり変わったが彼らの姿は昔のままである。

昭和33年に本学に入学して、平成14年に教職を退職するまで40年に渡って本学にお世話になった。退職後は、土壌や水中にある有用、有害物質の分離・回収、最近では福島原発事故で漏れ出た放射性物質をプロシアンブルーという顔料(紺青)で吸着、除去する技術の開発の仕事をしている。いま振り返ってみると、多くの仲間との出会い、山歩きの中での色々な経験が大きな財産となって役だっているように思う。

半世紀を経て

加藤 靖夫

(養蚕学科 昭和38年卒)

昭和38(1963)年3月に卒業したが、その頃の繊維学部の学舎は衣笠・大將軍にあり、嵯峨野の附属農場にも近く、恵まれた自然環境の中で、それぞれ個性豊かな先生方から熱情溢れる教育をしていただいた。また、クラシックギター部の創設に関わるなどクラブ活動も併せて楽しい学生生活を過ごすことが出来た。

昭和42(1967)年4月に奈良市学園前の帝塚山短期大学家庭生活学科に勤めることとなった。2年制の女子大で、当初は多少戸惑うこともあつたが、幸い自由な学風の学園で、伸び伸びと教育・研究に専念することが出来た。ところが平成の時代に入って急激に18歳人口が減少し、短大としての存続が難しくなってきた。また、女子だけを教育することへの疑念も生じ、男女共学の4年制学部への転換を目指すことになった。それからは短大と大学との設置基準が異なることもあって、てんやわんやの心忙しい数年間を過ごす羽目に落ち入った。

平成23(2011)年3月に、短大からバトンタッチされた帝塚山大学現代生活学部を定年退職した。退職後は、往年のギター部のメンバーと一緒に練習を再開し、年一回ではあるが、ギターコンサートに参加している。懐かしい学生時代に戻れる至福のひとつときである。想えば「良き師」「良き友」に恵まれた半世紀であつた。

(帝塚山大学名誉教授・農学博士)



大津市北部地域文化センターにて

ザファール氏（昭和37年製糸紡績学科卒）に 大英帝国から勲章の授与

前田 健二

（製糸紡績学科 昭和37年卒）

Mr. Zafar（ザファール氏）の名前が2014年1月1日に公表された英国エリザベス女王陛下の勲章リストに載り、大英帝国から勲章が授与されることになった。

この勲章は日本で云う勲五等などに相当するもので、英国内での長年にわたる絶大なる功績に対して授けられるものであり贈呈式は今年の秋に、また今年の6月にはバッキンガム宮殿での女王陛下主催の園遊会に招待される事になっている。

ザファール氏はパキスタン政府の推薦により50数年前日本に留学生として来日し、先ず日本語学校で言葉の勉強をした後、昭和33年に京都工芸繊維大学繊維学部製糸紡績学科に入学。そして卒業後は京都大学大学院に通った。

その後パキスタンに帰国し、日本にいた頃知りあった女性のヒサコさんと結婚した。パキスタンでは紡績会社の工場長として働いたが、将来は経済の知識も必要になるであろうと考えイギリスのブラッドフォード大学に留学。ところがこの間にパキスタンで革命が勃発、政情は混乱して国は東西に分割され、彼の母国はバングラディッシュに変わってしまった。そしてブルジョワ階級に属する人々が帰国するのは危険な状態となったためザファール氏は英国に留まった。

彼が住むことになったブラッドフォードにはイスラム圏からの移住民が多く、アラビア文字の印刷会社が必要な背景から1974年にヒサコさんと一緒に印刷会社 Orient Press を設立。これはゼロからの出発であったが、ヒサコさんはアラブ系の従業員に対し、仕事における日本流の几帳面さや考え方、姿勢などを教育し、厳しい波風に曝されながらも地道な努力と工夫を重ね、着実に会社を成長させていった。

同社は経営的に困難な時期を経験しながらも、恵まれない経歴故に仕事につくチャンスの得られない若者達に価値ある仕事を提供し、常に従業員を公平に扱い、熱心に訓練する姿勢を貫き、

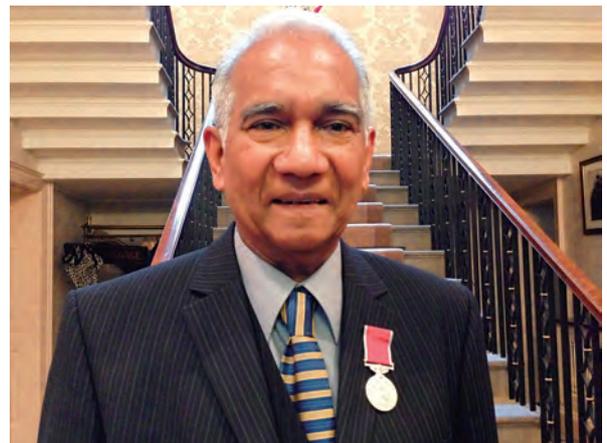
同社の知名度を徐々に高めていった。そして、英国に住むアジア人系のコミュニティーに仕事を提供する最初の印刷会社となった。

その後、このビジネスは40年以上に亘って絶え間なく発展し続け、高品質の印刷業をブラッドフォードにある全てのコミュニティーに供給するなど、全国に名声を博すまでに発展した。

また同社の功績として、それまでは相当な手間と日数を掛けなければ作れなかった金型不要の「金箔プリント法」の発明が挙げられる。この技術は1995年にパテントを取得し、その後工業賞をも獲得した。

我々紡績科37年卒クラスメートの同窓会は毎年欠かさず開催しているが、英国在住のザファール氏とはなかなか簡単に会うことが出来ないため、時々E-mailで情報交換をしている。今回のこのビッグニュースもこれによって知ることが出来た。

彼のこの授賞は我々クラスメートにとっても誠に喜ばしい限りである。



母校に感謝

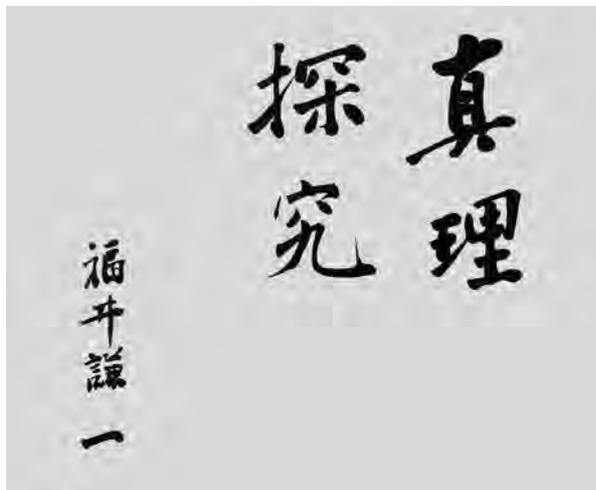
山下吉司

(機織工芸学科 昭和38年卒)

私は、遠州灘につながり海の幸に恵まれた浜名湖に突き出した半島、2004年に国際花博が開催された温暖な地に生まれた。家業が機屋であったことから、京都工芸繊維大学へ進み、地元の織機メーカーだった遠州製作（エンシュウ）に就職した。その後、繊維機械からの撤退、さらに父の病と悩んだ末に退社を決心した。同窓関係の方など多くの人々に支えられ、母校や父から学んだことを生かし、付加価値の高い織物作りをしてきた。「浜松の名工」表彰も受けた。結果、良い選択だったと思っている。

KIT 浜松支部は、最初は機織卒中心の集まりだった。1979年に栗原（建築19卒）浜松市長が誕生した時に100名近い同窓生が応援。この時「浜松工織会」とし、京都工大会の支部としても承認された。20年の長期に亙り市長を務められたので参加者も多く充実した同窓会となった。そして、工芸と繊維が一体となった同窓会である事などが評価され、多忙な中、福井学長のノーベル賞受賞記念講演が浜松医科大学にて盛大に開催された。講演後、私のお願いを聞いて快く筆をとって下さった色紙は、算数教育で数々の成果を上げてきた湖畔の村櫛小学校に今でも飾られている。子供たちにその思いは届いていると思う。

いろんな出会いがあるもので、先日、ドイツのボバタールのシティホテルに架けられている「書」に覚えがないかと聞かれた、今も44年前欧州出張の時に書いたものが！弟を引き寄せた？ 引退した今、織機や織物の相談を受けたり、京都で知り合った友や、地元の多くの知人（Uターン効果？）と釣りや陶芸や京都への旅を楽しんでいる。「基」となっている母校に感謝している。



卒業後のこと

増山和夫

(意匠工芸学科 昭和39年卒)

卒業後3年間、自動車デザイナーとして会社勤務した後、お誘いを受けて1967年4月母校意匠工芸学科助手に着任しました。まもなく本学にも大学紛争の波が押し寄せる頃でした。

実習や卒業制作を指導する傍ら、同年学内に電子計算機室が設立されたのを機に、デザインへのコンピュータの援用を志向し、1969年文部省派遣内地研究員として京都大学工学部数理工学科でコンピュータ援用の図形処理について研究する機会に恵まれ、1983年文部省派遣在外研究員として米国イリノイ工科大学 Design Process Laboratoryで行った問題状況の構造分析へのコンピュータの援用に関する研究へと繋がりました。その背景には、「デザイン」が社会に浸透し、誰もがそれについて一家言を持つようになり、「モノのデザイン」に先行する「コトのデザイン」、単に「モノの造形」に留まらないデザイン意識の重要性が他の領域でも広く認識されるようになったことがあります。また、「モノの作り方」だけでなく、その「使い方」「仕事の仕方」「生活の仕方」「生き方」を念頭に「かた」を構想し、「モノのかたち」を通して「行為のかたち」「生活のかたち」「生きるかたち」を提案する「デザイン」は、技術的な領域を超えて社会的、哲学的なテーマである。それら様々な「かた」と「かたち」の循環的階層構造を踏まえ、多様な「コト」が混在している問題状況の構造化・分析を経て、問題を構想する（創る）ことが、企画・計画、デザインの独創性に繋がるとの考えがありました。

機会を得て、具体的に機器・道具をデザインすることもありました。大阪中之島周辺の大川で運航されている水上バスや歯科用レントゲン装置その他です。退官後は、医療器具・装置のデザインを仕事とし、趣味の絵画は母校の図案・意匠・建築・機械などの同窓諸兄姉が50年近く続けてこられた同好会「艸丘展」に出品しています。

卒業生の後輩若年層に向けて

細野 文彬

(電気工学科 昭和43年卒)

ほんのちょっと前に卒業したような気もしますが、振り返るとあと少しで半世紀になります。

そこで、僭越ながら若い後輩の方々の精進の一助になればと自らの反省を基に思うことを書き流してみました。

私は創生の電気系第2期生で当時は草叢の中に木造の学舎が多く立ち並んだなんとも牧歌的な学校でした。そのような学び舎で(一応?)勉学に勤しみ、ときおりなげなしのお小遣いをポケットに河原町などに繰り出しちよっぴりオトナになった気分を味わったものです。

卒業時にはそれぞれに悲喜こもごもを抱え、関東・関西の各所に散ってゆきました。暫くは同窓会も開きませんでした。仕事を覚えるのに精一杯でそれどころではなかったのでしょう。

工科系大学の倣いで後輩の皆さんも今は技術道まっしぐらの忙しい日々を過ごしておられることと思います。しかし、中堅どころになると状況が少し違ってきます。

確かに技術師一筋の人生を歩む人もいますが、大半は自然と管理職に就くことになります。すると、仕事の対象が実は「技術」だけでなかったことに愕然とさせられます。“ものづくり”には、①それを実行するヒト・組織があり、②出来上がったモノを売る、つまり、ハンバイがあり、③そのための資金が必要であり、④全てを統合するチカラが要ります。これらは①人間行動学、②マーケティング、③財務会計学、④経営学と呼ばれており、所謂、文系で履修される類の科目です。技術系でも上級職になればなるほどその知識と理解が求められますが、困ったことに若い頃はこれらに関心をもつことは殆どありませんでした。しかし、技術系の私たちでも仕事人生の後半に否が応でも身につける要素のいわば「必修科目」なのです。私も、例えば、財務諸表などの理解に四苦八苦し、恥ずかしながら経営層になってさえ未だによく分かっていません。もっと若い頃から勉強しておけばよかったのにとつくづく思います。欧米では理系学士を終えた後に MBA でこれらを学び直す人も多いことは優れてよいことです。また、昨今は海外との交流が日常になり、世界の共通語としての英語の素養もあって当然とされるようになってきています。

以上のことを心の隅に置いて仕事に励まれば、皆さんの将来がより輝かしいものになること請合いです。ぜひ果敢な挑戦をお勧めします。(タイ在住19年)

陸上競技部創部65周年 記念総会を開催して

嘉藤 由里香

(高分子学科 平成20年卒)

平成20年高分子学科卒業、平成22年生体分子工学専攻を修了しました嘉藤(旧姓野口)と申します。在学中は陸上競技部に所属し、志を同じくする仲間とともに汗を流しておりました。現在も当時の仲間と24時間リレーマラソンに参加するなど、生涯無二の仲間と出会えた陸上競技部に大変感謝しております。

このような素晴らしい絆を結ぶ環境は歴代の先輩方が築き上げてきたものであり、創部当初や先輩方のご活躍を是非とも伺いたいと思い、昨年6月29日に創部65周年記念総会を開催致しました。実はこれまで、正確な創部の歴史が不明でした。OB会HPを管理していただいております岩田一様を初めとするOB・OGの方々のご協力により、創部にご尽力いただいた山崎隆先生、初代の先輩方とこの度初めて連絡を取ることができました。

総会当日は、第1代から55代までの62名、第58代目現役員を含む計65名での盛大な会を開催するに至りました。山崎先生より、昭和25年の創部当初は継続的な練習が難しく大変ご苦労されたことなど当時のご様子をお話いただき、伝統が大切に守られてきた部の一員であることに感慨深いものがありました。また、ご出席の皆様には近況をご報告いただき、様々な分野でのご活躍、思いがけない繋がりと激励を賜り、私自身先輩方から活力をいただきました。

今年65周年ということで、一年早い記念総会となりましたが、かつての思い出を語り合い、世代を超えて同じ部室で青春時代を過ごした先輩後輩の絆を結ぶ機会となり、改めて開催して良かったと感じております。これを機に定期的に記念総会を開催し、OB・OGの皆様、京都工芸繊維大学陸上競技部の益々のご活躍、発展に繋がればと願っております。

最後になりましたが、このような寄稿の機会を与えてくださいました山崎隆先生、畑和宏様に厚く御礼申し上げます。



平成26年6月29日 京都工芸繊維大学 陸上競技部創部65周年記念総会 於 ホテルグランヴィア大阪

松ヶ崎の思い出

鈴木 憲 二

(短期大学部機械工学科 昭和45年卒)

昭和45（1970）年に本学を卒業してから44年の月日が流れた。現在兵庫県尼崎市に住んでいます。昭和23（1948）年生まれ私は松ヶ崎で生まれ育った。小学校から中学、高校、大学と家から2kmの中が学習の場であった。松ヶ崎小学校に通う時は、毎日、工織（京都工芸繊維大学の略、以下同じ）の西側のバス通り（今はもうバスが走っていないと思うが）から北西角を右に曲がり、そのあと北側の通り道の真ん中辺りで左に曲がり（北に行く）堀町を通って行った。工織の西側の通りからフェンス越しに温室が見え、黄緑色のマスカットが出来ていたのを覚えている。その当時、マスカットは高価なもので、庶民の口にはめったに入らなかった。その季節になるといつも、あの甘くておいしそうな物を一度たべてみたいなあ子ども心に思った。今思うとそのバス通りはバス同士が離合困難だったと思える。一度市バスが路肩をはずし田んぼの側に横転していたことがあった。大きな事故にはならなかったようであるが、子どもの目には道路と田んぼの高低差が1mくらいあったようである。今は段差がなくなりあの当時の情景がうそみたいである。

工織の北側は田んぼに水を取り入れる小川が流れていた記憶がある。春になると菜の花畑にモンシロチョウやキチョウが飛び交い、蛙の大合唱も聞こえ、田んぼには蛙の卵がゼリー状に包まれ繋がったものがよくみられた。お百姓さんが鍬でそれらを引き上げていた。

蛙の死骸もあちこちにゴロゴロあった。童謡「春の小川」を聞く度に、必ずこの情景が思い出される。当時は田んぼに肥たごが見られた。ほとんど水洗化されていないトイレはお百姓さんが肥くみに来てくれるのは当たり前のことであった。落語の話の中で「エー」を繰り返す相手に「エーが長いなあ」と言えばそれに対して「エーが長い方が汲みやすい」と語られる場面があるが正にこのことを表わしている。

さらに工織の北側の道からはフェンス越しに草むらの中を大きいお兄ちゃん達が走り回ってラグビーや野球の練習をしているのがみられた。構内の北側部分の一角が運動場だったようだ。

秋になると11月23日頃に大学祭があって構内の高いイチョウが黄色く色づき「ローケツ染め」や「楽焼」と呼ばれていたものが毎年催されていた。「ローケツ染め」は白の生地に下絵を描いて残したい図柄や線状の所を溶かした蠟でなぞっていき、その後、藍で染めていたよう

である。小学生だった私には近所のお姉さん達がそれをしているところを横目に見ていた。藍の青さと生地の白さが鮮やかな模様を作り出すことが醍醐味であった。また「楽焼」を制作している風景を強いライトで照らされてカメラが回っていた事も思いでの中にある。ニュースの制作状況の一幕であったようだ。「楽焼」で粘土をこねて色をつけ上薬をかけてもらい灰皿を作ったことがあった。後日、焼き上がって父親にプレゼントしたが使い勝手が悪くて角に追いやられたようである。

当時の市電高木町停留所前に現在コープがあるが、その北側が私の住んでいた所であった。道路は舗装されておらず雨の日には窪みに水がたまり、どろんこの道であった。この工織に向かう道は朝夕の工織の学生と簡易保険局に勤める人達でいっぱいであった。その中にT定規を持った学生をよくみかけた。その頃木製の定規とT定規は図面を書く必須道具であった。やがてドラフターが出来て便利になったなあと思っていた。時が経ち今度はCADに変わりいっぺんに製図の概念が変わってしまった。学生の頃はT定規に三角定規で図面を汚さないように書いた思い出がある。カラス口などは使用したことがなかったがスミ入れで最後にスミが図面の肝心な所におちてしまい苦労して書き上げたものが一瞬にしてゴミになったという話も聞いた。

いつの頃だったか覚えていないが西門の守衛室の北側に木造二階建てのたてものがあったがこれが建物ごと南側に移動されたことがあった。あの大きな建物がそのままの形で移動されること自体どうして出来るのか不思議に思っていたがコロを利用して移動させたようだ。完全に移動された情景に本当に驚いた。

あの頃の思い出は、まだまだ残っていますが、また改めて思い起こしてみたいと思っています。



卒業後の動き

高橋 満 春

(生体分子工学課程 平成25年卒)

今回初めて同窓会誌に寄稿させていただきます。生体分子工学課程平成25年卒の高橋満春と申します。

私は本学を卒業後、そのまま大学院に進学し、生体分子工学専攻応用高分子化学研究室で浅岡定幸准教授の下、「高配向シリンダー型相分離薄膜の相分離界面におけるポルフィリンの配向方向の精密制御」というテーマを研究しています。

大学院での研究に関しては JST さきがけというプロジェクトにもチームで参加させていただき、日本の優秀な研究チームに交じって研究成果を報告し合う場に恵まれております。研究を通して化学の面白さ、研究の魅力を日々感じていますが、やはり本学は研究機材や研究資金の面で苦労することが多いように感じます。私の研究室は企業との共同研究でも資金を獲得してはいますが、やはり今後は企業との共同研究や産官学連携を強めることで大学は研究資金を獲得し、企業は新たな技術を獲得する仕組みが重要になってくるのではないかと感じています。このような産学の連携を強めるためにも、本学の卒業生で企業で働かれている皆様には積極的に学会などに参加し、本学で現在どのようなことが研究され、新たな技術が生まれているのかわかっていただきたいと思います。

また、就職に関しては自らの幅広い知的好奇心を満たしたい点と、技術を広めることに関わりたいという点からマクロミルというマーケティングリサーチ会社に就職が決まりました。様々なメーカーの商品開発をマーケティングリサーチという側面からお手伝いさせていただきたいと考えております。皆様とお仕事させていただく機会もあるかもしれないのでその際はよろしく願いいたします。

今年で大学院も卒業し、本格的に OB として本学と関わることになるので、この同窓会でのつながりを大事にして本学の更なる発展に協力させていただきたいと思います。

人生の伸び代は、 まだまだこれから

山内 一 真

(デザイン経営工学課程 平成25年卒)

私は、平成25年にデザイン経営工学課程を卒業し、現在は大阪の総合デザイン制作会社に営業・ディレクター勤務。この春で、社会人3年目を迎えようとしております。仕事内容を簡潔に説明すると、企業全体や商品・サービスの宣伝・販売促進 PR、ブランディング制作等の企画をしています（もっと分かりやすくいうと、WEB や紙物の制作、空間デザインや撮影などです）。

卒業から未だ2年。まだまだ修行の身ですので、これまでの活動報告ではなく、自身の仕事への想いについて、この場で書かせていただこうと思います。

「世の中の口角を上げる。」これが、私が就職活動時から現在も変わらず抱いている、自身のモットーです。私の仕事は、一人でも多くの人に、良質なモノやコトとの出会いを創り出すことです。そしてその出会いによって、生活が楽しくなったり、うるおったりと、生活価値が拡充することが目指すべき目的だと考えています（上記は会社の理念というわけではありません）。しかし、現状はまだまだ力不足。到底、上記のようなスケールの大きいレベルには届きません。だからこそ、その基本姿勢のもと、10年後の自分がそのモットーを体現している姿を思い描きながら、今は目の前の一つひとつの仕事を丁寧に、そしてお客様との出会いを大切に、着実に取り組んでいこうと思います。

また、社会人3年目ということで、本年は所謂、「真価が問われる年」を迎えます。より能動的な動きが求められる年次です。今までよりも一層、気を引き締めて、仕掛けにいきます。

なお、仕事と同時に、現在、京都工芸繊維大学同窓会にも参加させていただいております。若者離れの著しい同窓会へ20代・30代の増員をはかるために、少しずつではありますが、新しい動きも取り入れ始めております。こちらも面白くなりますので、皆様、2015年の同窓会にぜひご期待ください。

チェンマイ大学との ワークショップを通して 芦田 紘子

建築学専攻 博士前期課程1回生

昨年9月、私はタイのチェンマイ大学で、現地の学生とワークショップをさせていただきました。チェンマイは、町の中心に旧市街の城壁や歴史的建築物の残る観光都市である一方、現地の素材を生かした近代的な建築物も存在する、活気のあるとても美しい街です。ワークショップは、現地の学生と本学の学生が各2~3人ずつでチームとなり、課題として与えられた地域を調査し、プレゼンテーションを行うというものでした。タイの学生に調査地の歴史やなりたちを教えてもらいながら、そこで人々はどんな建物に住み、どんな暮らし方をしているのか、またどんなものを必要としているかなどを熱心に話し合いました。また、意見が食い違くと、再度調査地を訪れ、そこに暮らす人たちへ聞き込みを行うことで理解を深めました。互いに母国語ではない英語を用いての会話や、プレゼン資料のまとめ方の違いなどに戸惑うこともありましたが、現地と本学の教授方にアドバイスを頂いたおかげで、何とか形にすることができました。また滞在中、タイで活動されている建築家にお話を伺い、工事中の現場も見せて頂きました。異国で様々な建築に出会い、また同じ道を志す学生と意見を交わすことのできたこの度の経験は、本当に貴重なものとなりました。最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました同窓会の皆様、心から感謝申し上げます。



テキサス大学での研究留学

近藤 知明

電子システム工学専攻 博士前期課程2回生

留学先は、アメリカ、テキサス大学アーリントン校。私の直属の教授に紹介して頂いたナノフォトニクス分野で権威ある Prof. Robert Magnusson の研究室である。私の研究分野に非常に近く、普段から学術論文でお世話になっている先生の下で研究できることは非常に光栄であった。1ヵ月間滞在了した11月のテキサスは、京都とほぼ同気候。研究室内の一室に専用の机とデスクトップ PC が用意され、事前に提出した研究提案書に沿って光学デバイス特性の理論計算を行い、計算結果を中間報告・終了報告書にまとめ教授に提出した。現地での生活を満喫しながら、研究成果を出すことができ、公私ともに充実した留学となった。

今回の留学が初の海外渡航であったが、受け入れ先で非常に良く面倒をみてもらえた。たどたどしい英語に身振り手振りを交え、積極的に話しかけたのが功を成したと思う。「お前は、食・酒・恋愛・研究の話題だけ英語が通じる」と研究室でひやかされることもあったが。平日の昼は研究室のメンバーでランチに出掛け、週末は名所観光や映画鑑賞・ホームパーティなどで楽しく過ごせた。

研究生活では、豊富な論文誌資源、そして研究室メンバーとのディスカッションを通して有意義な情報を得ることができ、研究活動に没頭することができた。この一ヶ月で身に付けた知識や知見は、帰国後の研究活動に大いに役立っている。

末筆ながら、貴重な研究留学金援助を下さいました京都工芸繊維大学同窓会の皆様そして日本学生支援機構に心より御礼申し上げます。



グローバルインターンシップを 経て得たもの

小 中 貴 晃

情報工学専攻 博士前期課程1回生

8月16日から40日間、パナソニック R&D センターベトナムにてグローバルインターンシップに参加しました。まずはこのプログラムで「英語を厭わないチカラ」を身につけることができましたと思います。

ネイティブばりの発音ができなくても、多くの文法の知識がなくても、伝えようとする意識があればコミュニケーションを円滑に行うことは十分に可能です。言われてみれば当たり前のことでも、体験しなければなかなか気づけません。今回その気づきを得られたことが収穫の一つです。

技術面では専門分野以外のテーマに取り組むことで自らの知見を広げることができました。また企業が実際に採用しているウォーターフォールモデルを適用する中で、開発プロセスにおける自らの強みと弱みを認識することができたのも本プログラムで得たことの一つです。

また会社以外の場所で本当にたくさんの友達に巡り合いました。休みの日は観光に連れて行ってもらったり、一緒にパーティをしたりと、一人でも寂しい思いをすることなく過ごせたのは彼らのおかげです。

このインターンシップを通して、語学や技術に関することはもちろん、グローバルイゼーションという観点から、人として大きく成長することができました。今回得たものをどんどん活かし、今後活躍していきたいと思います。

最後になりましたが、ご支援いただいた京都工芸繊維大学同窓会の皆様には厚くお礼申し上げます。また、このような貴重な場を設けていただきましたパナソニック R&D センターベトナムの皆様、情報工学専攻長稲葉教授に感謝申し上げます。



ベトナムグローバル インターンシップ

並 河 竜 太

生体分子工学専攻 博士前期課程1回生

私たちは9月14日～29日の2週間、私含め14名の日本人学生でベトナムのカントー大学とホーチミン理科大学へ、教育体験のためのグローバルインターンシップに参加しました。ベトナムの街並みや交通事情は日本のそれとは大きく異なり、コミュニケーションや人との距離の取り方の違いなど、日本では味わうことのできない貴重な経験ができました。

カントー大学においては、現地の学生に対して実験の手法を指導しました。またホーチミン理科大学においては、現地の学生3名、日本人学生1名の4名が1チームとなって互いに議論しつつ課題を解決する実験を行いました。これらの中で最も苦労したのは、英語によるコミュニケーションでした。文法や発音を気にするあまり、積極的になれずに苦労することもありました。しかし、現地の友人ができ、彼らと交流していく中で私は大切なことに気が付きました。それはコミュニケーションをとる上でより大切なのは、完璧な文法や発音ではなく、自分の想いを伝えようという意思や姿勢であるということです。

今回のインターンシップを通して、新しい友人とのコミュニケーションの中で異文化を体験すること、そして受け入れ理解することの面白さと大切さを学びました。

ご支援いただいた京都工芸繊維大学同窓会様にお礼申し上げます。また、今回の貴重な経験の機会を下さった亀井教授と福澤准教授に感謝しています。ありがとうございました。



美術工芸資料館の活動

並木 誠士

(美術工芸資料館長)

2014年度の美術工芸資料館の活動をご報告いたします。

2014年度は、前年度3月から開催の「生活空間の詩／建築家・吉村順三展—三里塚教会と木造住宅を通して—」展と「1910-30年代日本のポスターと消費文化」展で幕をあげました。

5月末から8月にかけては、本学ご出身であり、朝日新聞に26年半にわたり連載された代表作「フジ三太郎」で有名な漫画家サトウサンペイ氏の作家生活を振り返る「サトウサンペイの世界—四コマで切り取る昭和—」展を開催しました。6月の記念講演会は立ち見ができるほどで、ユーモアにあふれたサトウ氏のお話に、笑いのたえない講演会となりました。



7月からは並行して「浅井忠・武田五一と神坂雪佳—京都高等工芸学校・京都市立美術工芸学校の図案教育 I」を開催しました。この展覧会は、美術工芸資料館が中心となって組織された「京都・大学ミュージアム連携」の活動の一環として、当館と京都市立芸術大学芸術資料館の合同連続企画としておこなわれ、各大学の前身校の図案科において、最初期に教育に携わった浅井忠と武田五一、神坂雪佳と古谷紅麟

に焦点をあて、教育用に蒐集された資料をもとに、設立背景と教育カリキュラムの側面から両校を比較しました。

9月からは、「京都学事始展—近代京都と三大学—」展を開催しました。これは、三大学（本学、京都府立大学、京都府立医科大学）の教養教育共同化科目として今年度開講した「京都学事始—近代京都と三大学—」の一環として開催されたもので、前身校の時代から所蔵されてきた歴史資料や工芸品、教材や教員や学生の収集品などを展示し、三大学の個性豊かな歴史と特色を紹介しました。

また、この展覧会に並行して、2013年度に続き、「SD レビュー2014 第33回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展」を開催しました。新人建築家の登竜門であるこの展覧会は、今年も斬新なアイデアの作品がならびました。

10月から始まった「光と空間」展、「建築と時間」展は、学芸員資格科目「博物館実習」の一環として、学生が企画をしました。照明器具の造形と実際に視覚をもって空間が創られる様を感じさせた「光と空間」展、長い時を生きる建築物について、様々なスパンで時間を区切り、その表情の変化が周囲の建築の在り方や人々の生活にもたらす影響を考えさせた「建築と時間」展、いずれも工夫をこらした展示となりました。

また、10月末からは、大阪新美術館建設準備室との共催で同準備室に寄託されているサントリーポスターコレクションと当館所蔵のポスターを紹介する「サントリーポスターコレク

ションに見るベルエポックのポスター」展を開催しました。19世紀末にはじまるパリの都市文化が花開いたベルエポックは、ポスターデザインが一気に開花した時代。会場には、近代ポスターの父シェレから、ロートレック、スタンラン、ミュシャなどの優れたグラフィックデザインが並び、観覧者は、当時の都市生活の雰囲気を楽しみました。

新年1月からは、大阪大学主催の文化庁助成の芸術支援事業の一環で「土居次義 記憶と絵画」展を開催しました。5日間の開催ながら、本学名誉教授で、京狩野や長谷川等伯の研究の第一人者である土居次義氏の、実作品の徹底的な観察に基づく詳細な調査ノートの数々が公開され、日本美術史研究にとって大変有意義な展覧会となりました。

また、昨年度に引き続き、文化庁から「平成25年度大学を活用した文化芸術推進事業」で2件の助成を受けました。この助成を受けて昨年度に開講した京都工芸繊維大学アートマネージャー養成講座では、活動2年目となる2013年度生が10月から11月まで金沢美術工芸大学美術工芸研究所展示室にて「加賀蒔絵と京蒔絵—工芸教育の精華—」展を企画・運営しました。また、2014年度生は、当館を会場として、<複製>のポジティブな側面に目をむけた「まねる・まねぶ・まなぶ—複製にみる教育と保存—」展を企画し、2月28日(土)まで開催しました。

また、やはり文化庁の助成を受けて、今年度も現代美術から伝統工芸までさまざまなジャンルから若手アーティスト11名を選抜した作品展「これからの、未来の途中—美術・工芸・デザインの鋭11人展—」を同じ日程で開催しています。この展覧会にさきがけて、昨年度の参加アーティストたちがさらなる成果を示す「あれからの、未来の途中—美術・工芸・デザイ

ンの鋭12人展」を京都造形芸術大学ARTZONE、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA で開催しました。これも京都・大学ミュージアム連携の活動の一環です。

活動4年目に突入した京都・大学ミュージアム連携では、2014年3月に所属館14館で、大学ミュージアムにおける研究・教育に資するため相互に協力する包括協定を結び、あらたなスタートをきりました。10月からは第3回目となるスタンプラリーがスタートし、11月には、合同展覧会第3弾となる「大学は宝箱！—京都・大学ミュージアム連携の底力 出開帳 in 東北」を東北歴史博物館で開催し、東北学院大学、東北福祉大学のご協力も得て5,000名を動員しました。

展覧会活動のほかに、4月から3ヶ月間今年もオランダのライデン大学大学院から1名のインターンを受け入れました。また、10月には収蔵品ポスターをつかった2015年カレンダーの製作をおこない、現在も好評発売中です。また、引き続きポストカードの販売もしています。



3月16日からは、1階にて「京焼の新たなる戦略—明治期における陶磁器収集品より—」展、「ハンガリーのデザイン：ジョルナイ工房の陶磁器と映画ポスター」展、2階にて「第13回村野藤吾建築設計図展」を開催中です。

みなさまのご来館を心からお待ちしています。

課外活動

広告研究会

部長 柴野 史朗
(デザイン経営工学課程 3回生)

現在、広告研究会では5名の部員が活動しています。それぞれの部員が気に入った広告を持ち寄り、その広告のどこに魅力を感じるか、何故そう感じるかを考察し、そしてその場で得られた結果をふまえて、各企業などが主催するコンペに反映させる、というのが主な活動の流れです。

コンペは結果を判断するのは主催者側であるという特性上、一般的な運動部のように、練習がそのまま結果に結びつく訳ではありません。いくら議論を重ねても、良いと思える作品が仕上がっても、結果が不採用となればそれで終わり、という厳しい世界です。しかしながら、その一つ一つの結果に一喜一憂せずには私たちは日々製作にいそんでいます。

これからは、さらに大人数で活発な意見交換を行うため、部員増を目的とした広告研究会自身のポスターの製作などの活動も行っていきたいと思っています。応援よろしくお祈りします。



写真研究部

部長・主務 櫻本 康乃
(造形工学課程 4回生)

私たち写真研究部は院生まで合わせて約40名で、月に1回程度撮影会を企画し、主に京都市内に皆で写真を撮りに行きます。その他、年1回の撮影合宿や学祭での展示会を行っています。昨年の10月には京都府立大学写真部の方々と合同写真展を開催しました。暗室も整備されており、フィルムカメラを使って撮っている部員もいます。

活動回数は多くありませんが、集まればカメラの話、写真の話、撮影に行きたい場所などと話は盛り上がり、和気藹々とした部活です。運動部とは異なり卒業するまで引退の扱いはない部活ですので、学年幅広く部活動を共にして、私たちにしか表現出来ない写真を撮影・展示していけるような部でありたいと思っています。



テーブルトーク部

主務 渡邊 裕貴
(機械システム工学課程 2回生)

私たちテーブルトーク部は、部員が各グループに分かれて曜日毎に、部室や図書館を活動場所として活動しています。また、土曜日や午前中でも積極的にテーブルトークに参加し、部員間の交流が深く、活気にあふれたアットホームな部活です。他にも私たちは年に一度、自分達の活動をまとめた部誌を作成して春頃に配布しています。OBの方々が部室に遊びに来ていただく事もあり、OBの皆さんからよりよいテーブルトークをするためのアドバイスなどをいただいています。OBの方々が積み上げてきた経験などを聞けて部員一堂感謝しています。

これからもOB・OGの皆様にはテーブルトーク部の応援をよろしくお祈りします。



アニメーション研究会

部長・主務 岩上 諒太郎
(生体分子工学課程 3回生)

私たち『アニメーション研究会』は部員約20名でアニメーションを中心としてゲーム、漫画などサブカルチャー全般を扱い、主に“制作”と“研究”を二つの柱として活動しています。昨年度の活動としまして、制作面ではアニメーション研究会のタイトルロゴ動画、SDキャラを使ったオリジナルアニメーションのキャラ紹介、新作アニメーションを制作しました。さらに制作するにあたってのスキル向上を目的として毎週水曜日に作画班による勉強会も行いました。

研究面では春と秋の二回、部誌を発行しました。また毎週火曜日に上映会を行い、部員間の意見交換、議論などを交わし、アニメに対する多様な見方、考え方を共有しました。また文化祭にて制作アニメーションの上映や部誌の頒布を行うことで学内外に私どもの活動を発信することが出来ました。さらに発信力を高めるため現在、制作アニメーションを“YouTube”にて公開しています。今年度は更なる活動の発展に尽力して参りますのでよろしくお祈りします。



硬式野球部

部長 吉岡 拓也
(物質工学課程 3回生)

私たち硬式野球部は現在3回生5人、2回生5人、1回生9人、マネージャー8人で活動しております。昨年度は春リーグも秋リーグも惜しくも2部リーグ残留という結果になりました。しかし、確実に優勝争いにくいこんでおります。そのため、私たちは現在2部リーグ優勝、そして1部リーグ昇格を目標に日々熱心に練習しています。次の春リーグで良い結果を残すため、冬練は自主練だけでなく全体練もたくさん取り入れました。チーム一丸となって心をつなげて、勝利を掴むため燃えております。

今、こうして私たちが野球ができるというのは、OBの皆様がこの野球部を大切に受け継いでくださったからです。今年度は、さらに厳しい戦いになりますが、京都工芸繊維大学硬式野球部、目標達成のため日々努力してまいりますので、OB・OGをはじめ、皆様方の変わらぬご声援、ご指導をよろしくお願いします。



バスケットボール部

主務 滝下 直人
(電子システム工学課程 3回生)

私たちバスケットボール部は現在14人の部員と1人のマネージャーで、週3回活動しています。関西学生バスケットボール連盟リーグ戦では現在5部に所属しています。一昨年度のリーグ戦で6部リーグではあったものの優勝し5部に昇格することができました。昨年度もこの調子で4部昇格を目標にして練習を行ってきました。その結果昨年度は5部準優勝という結果を残し、入れ替え戦にまで進むことができました。しかし4部昇格をかけた入れ替え戦で負けてしまい惜しくも4部昇格とはなりません。今年度は、昨年度は惜しくも逃した4部昇格を目標に練習をしていきたいと思っております。

バスケットボール部は一度は廃部を経験したとはいえ、そこから立ち直り現在まで続けてこられたのはOBの方々の支援、応援があつてのことだと思います。本当にありがとうございます。これからもOBの方々の助けを借りることもありますがどうかよろしくお願いします。



スキー部

主務 高野 英亮
(機械システム工学課程 4回生)

私たちホワイトローカススキークラブは、今年で創部51年にもなる伝統あるクラブです。現在私たちは部員40人で長野県白馬のスキー場で活動しています。このクラブに所属する部員は大学からスキーを始めた者ばかりですが、冬の間クラブのOB・OGさんと一緒に合宿し、練習することでかなり上達し、上回生になった頃には学生大会で他大学のバリバリのスキー経験者たちと互角に戦えるようになるほどに成長します。「スキー部って冬にしか活動しないんじゃないの?」と思う方が大勢いると思いますが、スキー部にはオフシーズンでも楽しいイベントがたくさんあります。私たちは京都大、立命館大、同志社大、京都女子大、神戸大など関西地区にある大学のスキー部により運営されている関西学生スキー連合(通称:関デモ)という組織に加盟しており、その関デモで開催される飲み会や合同トレーニングなどのイベントに参加することで他大学の人達との交流を深めています。



モーターサイクルスポーツクラブ

部長 高橋 雄太
(電子システム工学課程 4回生)

私達モーターサイクルスポーツクラブ(バイク部)は院生も含め20名弱の部員が所属しており、主な活動内容としてバイクの整備、シーズン中ではレースの参加が挙げられます。

レースでは春から初冬にかけて行われるサーキットでの大会に数多く出場しています。

また上記活動以外に合宿が年に2回、部員同士でツーリングに行くこともあります。

毎週の活動としましては、毎週金曜午後7時から部室でミーティングを行っており、そこでは今後の活動内容やレースの参加に向けて部が所有するバイク2台の点検・整備をしています。

卒業された先輩方の中には個人でレースに出場されたり、バイクの企画・開発に携わる仕事をされている方など幅広いジャンルで活躍されている方が多く時折ミーティングにも参加してください。

当部活ではモーターサイクルに関わるにあたって多くの機材や施設、先輩方の知識が揃っておりますので現役部員に良い刺激になることと思っております。



叙勲

- 母校名誉教授 西村 武 氏に、平成26年11月3日、瑞寶中綬章が授与されました。

教員の受賞

所属	職名	氏名	受賞名	授与機関	受賞日
電子システム工学部門	教授	小林和淑	2013年信頼性物理に関する国際会議最優秀ポスター論文賞をグループ受賞	IEEE (国際電気電子工学学会)	平成25. 4. 14
情報工学部門	准教授	梅原大祐	活動功労賞を受賞	一般社団法人 電子情報通信学会通信ソサイエティ	平成25. 9. 18
情報工学部門	教授	岡 夏樹	SI 2013優秀講演賞をグループ受賞	公益社団法人 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門	平成25. 12. 20
情報工学部門	教授	柴山 潔	情報処理学会情報処理技術遺産を受賞	一般社団法人 情報処理学会	平成26. 3. 11
高分子機能工学部門	教授	堀田 収	APEX/JJAP 編集貢献賞を受賞	公益社団法人 応用物理学会	平成26. 4. 9
電子システム工学部門	准教授	粟辻安浩	平成26年度科学技術賞 (文部科学大臣表彰) を受賞	文部科学省	平成26. 4. 15
建築学部門	准教授	清水重敦	2014年建築史学会賞を受賞	建築史学会	平成26. 4. 19
機械システム工学部門	助教	中村守正	優秀講演賞を受賞	一般社団法人 日本機械学会 機素潤滑設計部門	平成26. 4. 21
物質工学部門	准教授	池田裕子	第29回オーエンスレーガー賞を受賞	一般社団法人 日本ゴム協会	平成26. 5. 20
機械システム工学部門	准教授	高木知弘	平成25年度界面接合研究賞を受賞	一般社団法人 溶接学会 界面接合研究委員会	平成26. 6. 5
先端ファイブロ科学部門	准教授	奥林里子	繊維学会賞を受賞	一般社団法人 繊維学会	平成26. 6. 11
情報工学部門	教授 准教授	若杉耕一郎 梅原大祐	平成25年度通信方式研究会委員長賞をグループ受賞	電子情報通信学会通信方式研究専門委員会	平成26. 7. 3
電子システム工学部門	教授 准教授	裏 升吾 粟辻安浩	12th Workshop on Information Optics (WIO2013) Best Poster Award をグループ受賞	The Award Committee of the 12th International Workshop on Information Optics	
バイオベースマテリアル学部門	助教	田中知成	第60回高分子研究発表会 (神戸) ヤングサイエンティスト講演賞を受賞	高分子学会関西支部	平成26. 7. 25
生体分子工学部門	教授	吉川正和	エスベック環境研究奨励賞を受賞	公益信託エスベック地球環境研究・技術基金	平成26. 8. 27
機械システム工学部門	准教授	高木知弘	The Third International Symposium on Phase-field Method Poster Award を受賞	The Third International Symposium on Phase-field Method	平成26. 8. 29
情報工学部門	准教授	梅原大祐	活動功労賞を受賞	一般社団法人 電子情報通信学会通信ソサイエティ	平成26. 9. 24
デザイン学部門	教授	山本建太郎	2014年グッドデザイン賞を受賞	日本デザイン振興会	平成26. 10. 1
電子システム工学部門	教授	吉本昌広	平成26年度科学研究費助成事業審査員表彰を受賞	独立行政法人 日本学術振興会	平成26. 10. 31
物質工学部門	准教授	塩野剛司	国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰) を受賞	経済産業省	平成26. 10. 14
建築学部門	教授	鈴木克彦	The Best Presentation in the First International Conference of IASUR をグループ受賞	International Alliance for Sustainable Urbanization and Regeneration	平成26. 10. 27
高分子機能工学部門	教授 准教授 助教	宮田貴章 則未智久 中西英行	Best Poster Award – Second Place をグループ受賞	7th International Workshop on Advanced Materials Science and Nanotechnology (IWAMSN)	平成26. 11. 6
建築学部門	准教授	西田雅嗣	(フランス) 建築アカデミー2014年書籍賞を受賞	(フランス) 建築アカデミー	平成26. 11. 12
物質工学部門	准教授	吉田裕美	志方メダルを受賞	日本ポーラログラフ学会	平成26. 11. 15
高分子機能工学部門	教授 准教授 助教	宮田貴章 則未智久 中西英行	超音波シンポジウム奨励賞をグループ受賞	超音波シンポジウム運営委員会	平成26. 12. 4
情報工学部門	教授 助教	岡 夏樹 尾関基行	HAI – 2013 Impressive Poster Award をグループ受賞	HAI シンポジウム2013実行委員会	平成26. 12. 14

平成26年度 博士学位取得者と学位論文題名

○課程修了によるもの（課程博士）

（平成26年9月25日授与）

専攻	申請者	論文題目（ ）は和訳を掲載
生命物質科学専攻	DAO HOANG THIEN KIM (だお ほあん ていえん きむ)	(ポルフィリア症患者の分子変異に関する基礎的および臨床的研究)
生命物質科学専攻	TRAN TIEN TAI (ちゃん ていん たい)	(腫瘍組織におけるδ-アミノレブリン酸誘導性の光線力学的療法の分子的有效性の解明)
生命物質科学専攻	NGUYEN DAT TIEN (ぐえん だつと ていえん)	(炎症と癌の関連に注目した IKKβ/NF-κB 抑制メカニズムの研究)
生命物質科学専攻	GIANG NGOC HA (じゃん ごつく はー)	(フォトリフラクティブポリマー複合体の設計と評価)
生命物質科学専攻	安田 和敬 (やすだ よりたか)	(シンクロトロン <i>in situ</i> X線分析による架橋ゴムネットワークの特性化)
生命物質科学専攻	谷川 哲朗 (たにがわ てつろう)	水中パフォーマンスの時間的・空間的評価
設計工学専攻	LERTPHOKANONT VITCHUDA (らあーとぼかのん ういちゆだー)	(ふれまわり放電テクスチャリングによる創成された微細表面の摩擦特性)
設計工学専攻	尹 鍾鐵 (ゆん じよん ちよる)	(20nm MOSFETにおけるソース・ドレイン抵抗の高次効果を含む解析飽和ドレイン電流モデル)
造形科学専攻	時 準 (じ じゆん)	中国と日本の『水滸伝』図像における比較研究－陳洪綬と歌川国芳を中心に
造形科学専攻	松下 迪生 (まつした みちお)	日本統治期台湾の顕彰空間の形成に関する研究
先端ファイブ口科学専攻	今村 信幸 (いまむら のぶゆき)	プラスチック材料の高機能化のための配合技術と成形技術の研究
先端ファイブ口科学専攻	邵 振宗 (しょう ぜんぞん)	(高分子材料強化用改良パラ系アラミドの調製)
先端ファイブ口科学専攻	大塚 忠史 (おおつか ただし)	高品位点眼容器の開発に関する研究
先端ファイブ口科学専攻	王 存涛 (わん くんたお)	(射出成形による繊維強化熱可塑性樹脂の力学特性と界面特性に関する研究)

○論文提出によるもの（論文博士）

（平成26年9月25日授与）

専攻	申請者	論文題目（ ）は和訳を掲載
	島袋 順二 (しまぶくろ じゆんじ)	(カイコサイボウイルス多角体へのタンパク質の固定化の応用研究)
	片瀬 満 (かたせ みつる)	大豆加工食品における微生物迅速評価法の検討
	神蔵 理恵子 (かみくら りえこ)	パブリックアートの「恒久性」に関する一考察
	黒田 孝二 (くろだ こうじ)	「京壁の流動性を向上する鍛造鋳の研究」－感性と科学のハイブリッド工学基盤の展開－

○課程修了によるもの（課程博士）

（平成27年3月25日授与）

専攻	申請者	論文題目（ ）は和訳を掲載
生命物質科学専攻	江口 晃一 (えぐち こういち)	(ショウジョウバエ発生過程における DOCK ファミリータンパク質 Sponge の研究)
生命物質科学専攻	梁井 啓史 (やない ひろし)	(ショウジョウバエ骨髄性白血病因子 dMLF と DRE/DREF 転写制御経路の細胞生物学的及び遺伝学的研究)
生命物質科学専攻	二瓶 卓 (にへい たかし)	(多様なフルオロアルケン骨格の高立体選択的構築のための革新的な合成手法の開発に関する研究)
生命物質科学専攻	葛西 篤也 (かさい あつや)	鉄鋼用耐火物中の SiO ₂ 結晶の高温相転移が耐火物特性に与える影響に関する考察

専攻	申請者	論文題目 () は和訳を掲載
生命物質科学 専攻	NGUYEN THANH BINH (にいえん たいん びん)	(ショウジョウバエの癌関連遺伝子とその細胞代謝における役割についての研究)
生命物質科学 専攻	TRUONG THI BICH VAN (とうるん てい びっち ぶん)	(青枯病菌バクテリオファージに関する研究)
生命物質科学 専攻	辻 道夫 (つじ みちお)	高温・輻射環境下運動時における着衣条件と温熱ストレスに関する実験的研究
生命物質科学 専攻	西尾 隆 (にしお たかし)	(バイオインスパイアード制御結晶化方法による炭酸カルシウム-ポリマー複合材料の調製)
生命物質科学 専攻	中嶋 真帆 (なかじま まほ)	(ポリ-L-乳酸とポリ-D-乳酸のステレオコンプレックス化を利用したナノ構造制御)
生命物質科学 専攻	丸山 達哉 (まるやま たつや)	Tec family チロシンキナーゼである T _{xk} を介する1型ヘルパー T (Th1) 細胞特異的な細胞内シグナル伝達機構の解析
設計工学専攻	田尻 恭平 (たじり きょうへい)	シームレス仮想境界法による魚類まわり流れの LES
設計工学専攻	田中 昂 (たなか たかし)	非線形波動変調に基づく構造物損傷の位置推定に関する研究
設計工学専攻	藪内 美智太郎 (やぶうち みちたろう)	(プロセスばらつきと BTI による劣化を考慮した ASIC 及び FPGA 設計手法に関する研究)
設計工学専攻	横山 友也 (よこやま ゆうや)	(質問回答サイトにおける質問者への適切な回答者の引き合わせ)
設計工学専攻	夏 鵬 (か ほう)	デジタルホログラフィを用いた分光推定イメージング
先端ファイブ ロ科学専攻	松好 弘明 (まつよし ひろあき)	高機能有機・無機コーティングの特性と耐久性に関する研究
先端ファイブ ロ科学専攻	辻 愛里 (つじ あいり)	高齢者における体内水分量変位モデルの構築とその応用
先端ファイブ ロ科学専攻	藤 和久 (とう かずひさ)	射出成形用繊維強化複合材料の高強度化に関する研究
先端ファイブ ロ科学専攻	古川 貴士 (ふるかわ たかし)	京友禅染における糊置工程に関する研究
先端ファイブ ロ科学専攻	NGUYEN THI THANH BINH (ぐえん てい たん びん)	(数値解析手法を用いた短繊維強化複合材料射出成形品の繊維配向予測手法に関する研究)
先端ファイブ ロ科学専攻	岡田 きよみ (おかだ きよみ)	赤外分光法を用いたポリエチレンの劣化評価法に関する研究
先端ファイブ ロ科学専攻	UAWONGSUWAN PUTINUN (うあわんすわん ぷーていなん)	(射出成形による短繊維強化複合材料およびハイブリッド複合材料の構造と特性)
先端ファイブ ロ科学専攻	田茂井 勇人 (たもい はやと)	繊維強化複合材料の力学的特性に及ぼす撚りおよび構造の影響
バイオベース マテリアル学 専攻	山本 真揮 (やまもと まさき)	(電界紡糸法により得られた PLLA/PDLA ブレンドナノファイバーの構造と性質)
バイオベース マテリアル学 専攻	徐 于懿 (しゅー ゆい)	(光学異性のポリラクチド-ポリ(オキシエチレン)ブロック共重合体から形成される生体吸収性ゲルの開発と特性評価)

○論文提出によるもの (論文博士)

(平成27年3月25日授与)

専攻	申請者	論文題目 () は和訳を掲載
	谷内 信彦 (たにうち のぶひこ)	アルツハイマー病モデルマウスにおけるニューロン新生制御および記憶・行動障害に関する研究
	MUHAMMAD IZHAM BIN ISMAIL (むはまっど いずはむ びん いすまいる)	(正規化格子ボルツマン法における高レーノルズ数と乱流の流れのシミュレーションの研究)
	柿田 恭良 (かきた やすよし)	炭素繊維強化組物複合材料の構造と特性に関する研究

卒業生・修了生の就職先・進学先

(平成26年度 進路先内定状況一覧)

(☆印は進学先を示す)

学生サービス課就職支援室

(H27. 2.28現在)

工芸科学部

応用生物学課程

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
京都府	1	協和発酵キリン	1	玉屋	1	テルミック	1
日清紡ホールディングス	1	Meiji Seika ファルマ	1	WORKS GROUP	1	☆大阪大学	1
☆京都工芸繊維大学	40	☆京都大学	6	☆千葉大学	1		

生体分子工学課程

ウェーブ	1	NTT フィールドテクノ	1	日本 GE	1	日本郵便	1
☆京都工芸繊維大学	39	☆京都大学	1	☆奈良先端科学技術大学院大学	1		

高分子機能工学課程

オフィストークウェア	1	住友理工	1	積水樹脂	1	東レ	1
西利	1	兵庫県教員	1	増田医科器械	1	山崎製パン	1
☆大阪大学	2	☆京都工芸繊維大学	44	☆京都大学	1		

物質工学課程

ITM	1	京都府教員	1	倉敷紡績	1	自営業	1
ダイシン化工	1	東レ	1	ニチコン	1	日本繊維製品品質技術センター	1
美鈴工業	1	大和運送	1	☆大阪大学	2	☆京都工芸繊維大学	58
☆京都大学	3	☆東京工業大学	1				

電子システム工学課程

IMV	1	関電システムソリューションズ	1	ジェイテック	1	錦	1
防衛省	1	山口県	1	☆大阪大学	3	☆京都工芸繊維大学	44
☆京都大学	2						

情報工学課程

エスユーエス	1	シーサー	1	鳥津メディカルシステムズ	1	ソニー	1
大日本印刷	1	三菱電機システムサービス	1	MetaFrame Technology Solutions	1	☆京都工芸繊維大学	55
☆奈良先端科学技術大学院大学	1						

機械システム工学課程

アカマツフォーシス	1	いすゞ車体	1	今治造船	1	オークマ	1
三洋化成工業	1	自営業	1	住友ケミカルエンジニアリング	1	TOWA	1
特殊発條興業	1	中西金属工業	1	日本発条	1	バンドー化学	1
福井県	1	富士重工業	1	富士通周辺機	1	本田技研工業	1
マツダ	1	三菱化学エンジニアリング	1	三菱自動車工業	1	三菱電機	1
ヤマウチ	1	山岡製作所	1	☆大阪大学	4	☆京都工芸繊維大学	56
☆東北大学	2	☆名古屋大学	1				

デザイン経営工学課程

アイディーエイ	1	アウトソーシングテクノロジー	1	イトーキ	1	イリア	1
NRI ネットコム	1	グンゼ	1	コンセント	1	シティーヒル	1
スターライト工業	1	ストープリ	1	生和コーポレーション	1	セキスイハイム近畿	1
土山印刷	1	TIS	2	手塚企画	1	テルミック	1
ナイキ	1	西松屋チェーン	1	日本アイ・ピー・エムテクニカル・ソリューション	1	パシフル	1
富士ゼロックス	1	松浦機械製作所	1	ヤマソロ	1	ラソナ	1
LIXIL	1	リクルートマーケティングパートナーズ	1	良品計画	1	☆京都工芸繊維大学	19

造形工学課程

イクア・ジャパン	1	エクセルホーム	1	NTT ファシリティーズ	1	鹿島建設	1
木の家専門店 谷口工務店	1	京セラドキュメントソリューションズ	1	KYOSO	1	京都パナホーム	1
京都府	1	建築計画研究所	1	コンチャロフ製菓	1	財務省近畿財務局	1
繁建築構造設計事務所	1	JFE シビル	1	スペース	1	大日本土木	1
大東建託	1	高松建設	1	たけびし	1	東急建設	1
東京リスマチック	1	東レ建設	1	流	1	ナサホーム	1
西宮市	1	日本コントロールシステム	1	豊屋川市	1	野村建設工業	1
野村不動産	1	阪急阪神ビルマネジメント	1	阪和	1	ビューローベリタスジャパン	1
フォーミュレーション I・T・S	1	フジタ	1	☆大阪大学	1	☆京都工芸繊維大学	74
☆神戸大学	1	☆東京大学	1				

先端科学技術課程

イオンリテール	1	宇徳	1	大塚産業	1	河村化工	1
光輝	1	大同信号	1	東洋メンテナンス	1	日本写真印刷	1
パナソニック・エクセルスタッフ	1	新樹グローバル・アイビー特許業務法人	1	帯広市	1	☆大阪大学	1
☆京都工芸繊維大学	7	☆神戸大学	1				

大学院工芸科学研究科博士前期課程

応用生物学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
アイロム	1	アルケア	1	伊藤ハム	1	エア・ウォーター	1
エスケー化研	1	オリエンタル酵母工業	1	兼松エレクトロニクス	1	クリオサイエンス	1
コカ・コーラレイストジャパン	1	G&Uシステムサービス	1	シミック	2	住友ゴム工業	1
萱田香料	1	損害保険ジャパン日本興亜	1	タイガー魔法瓶	1	デザート	1
東芝	2	中野製菓	1	日本血液製剤機構	1	日本コルマ	1
日本たばこ産業	1	パナソニックシステムネットワークス	1	ハレクセル・インターナショナル	2	ビジョン	1
藤本製菓	1	ベネッセコーポレーション	1	毎日新聞社	1	丸大食品	2
丸美屋食品工業	1	Mizkan J plus Holdings	1	ラプラス・システム	1	立命館	1
☆京都工芸繊維大学	1	☆京都大学	1				

生体分子工学専攻

旭化成ワッカーシリコーン	1	荒川化学工業	1	エスケー化研	1	京都府	1
互応化学工業	1	阪本薬品工業	1	三京化成	1	昭和産業	1
シスメックス	1	シンワ	1	住江織物	1	積水化学工業	1
ダイセル	1	タイソー	1	東亜薬品	1	トヨタ自動車	1
日揮	1	日本カーバイド工業	1	日本香料薬品	1	藤本製菓	1
ホソカワミクロン	1	マクロミル	1	マツイカガク	1	三重大学	1
三菱商事ケミカル	1	LIXIL	2	レイス	1	☆京都工芸繊維大学	2

高分子機能工学専攻

出光興産	1	京セラ	1	京セラドキュメントソリューションズ	2	サカタインクス	1
サクラクレパス	1	サンコール	1	住友ゴム工業	1	住江織物	1
積水化学工業	1	タイガー魔法瓶	1	大日精化工業	1	大日本印刷	1
タカタ	1	帝人	1	東海理化電機製作所	1	東洋ゴム工業	1
ニッタ・ハース	1	日本写真印刷	1	日本精工	1	パナソニック	1
日星電気	1	堀場製作所	1	松風	1	三菱樹脂	1
村田機械	1	村田製作所	1	ユーエイキャスター	1	レゾノカラー工業	1

物質工学専攻

旭硝子	1	上村工業	1	ABB 日本ベレー	1	尾池工業	1
金井重要工業	1	キュービックエスコンサルティング	1	京セラ	1	近畿ユア・ウォーター	1
ケイミュー	1	ケミプロ化成	1	小林製薬	1	山九	1
サンスター技研	1	シーアイ化成	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1	ジーシー	1

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
シーボン	1	SCREEN ホールディングス	1	住友大阪セメント	1	住友電装	1
住江織物	1	積水化学工業	1	第一工業製業	2	ダイキン工業	1
ダイワエンジニアリング	1	タカラベルモント	1	ニチコン	1	日華化学	1
ニッタ	1	日本エイアンドエル	1	日本写真印刷	1	日本ゼオン	1
日本特殊陶業	1	日本ビラー工業	2	野間化学工業	1	野村興産	1
ノリタケカンパニーリミテド	1	フジクリン工業	1	ホシデン	1	マツイカガク	1
松風	1	三菱樹脂	1	明成化学工業	1	LIXIL	1
リコージャパン	1	ワイエムシ	1	☆京都工芸繊維大学	1		
電子システム工学専攻							
アイシン精機	1	アンリツ	1	沖電気工業	1	オムロン	1
オムロンソーシャルソリューションズ	1	オムロンヘルスケア	1	関西電力	1	キヤノン	1
京セラ	1	京セラドキュメントソリューションズ	1	京都製作所	1	クボタ	1
コニカミノルタ	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1	ジェイテクト	1	島津製作所	2
住友重機械工業	1	星和電機	1	積水化学工業	1	積本チエイン	1
テクノマックス	1	東海旅客鉄道	1	東芝	1	豊田自動織機	1
西日本旅客鉄道	1	日揮	1	日新電機	1	日本電産	2
富士通テン	1	本田技研工業	1	マツダ	1	三菱電機	1
三菱電機エンジニアリング	1	村田機械	1	村田製作所	1	リコー	1
ローム	1	(既職) 京都大学	1	☆京都工芸繊維大学	1		
情報工学専攻							
アークレイ	1	イシダ	1	インフォコム	1	エヌ・ティ・ティ・スマートコネク	1
オークマ	1	カブコン	1	川重テクノロジー	1	関西電力	1
関電システムソリューションズ	1	北川鉄工所	1	京セラコミュニケーションシステム	3	グローリーシステムクリエイ	1
ケイ・オプティコム	2	SCREEN ホールディングス	2	住友電機情報システム	1	ダイナテック	1
大和総研	1	ディアンドアイ情報システム	1	TIS	1	東芝	1
日本写真印刷	1	日本電気	1	日本無線	1	パナソニック	2
ピクシフ	1	日立製作所	2	富士通	1	編集工学研究所	1
堀場製作所	1	本田技研工業	1	三菱電機	1	村田機械	1
LIXIL	1	ロックオン	1				
機械システム工学専攻							
IHI	1	今治造船	1	OGCTS	1	キヤノン	1
京セラドキュメントソリューションズ	1	クボタ	1	小松製作所	1	ジーエス・ユアサコーポレー	1
神鋼環境ソリューション	1	スズキ	1	住友電気工業	2	セイコーインスツル	1
積水化学工業	1	タカタ	1	タタ	1	デンソー	1
東海旅客鉄道	1	東芝	1	東洋ゴム工業	1	豊田自動織機	1
トヨタ自動車	1	二九精密機械工業	1	日新イオン機器	1	日本精工	1
パナソニック	4	パナソニックファクトリーソリューションズ	1	東レ	2	日立造船	3
不二越	1	富士重工業	1	富士ゼロックス	2	フジテック	1
本田技研工業	1	マキタ	2	三菱自動車エンジニアリング	1	三菱電機	1
三菱マテリアル	1	メニコン	1	ヤンマー	1	UACJ	1
リコー	1						
デザイン経営工学専攻							
アシックス	1	王子コンテナ	1	セーレン	1	千趣会	1
ソニー	1	竹中工務店	1	タカラベルモント	1	TOTO	1
日本アイ・ピー・エム・サービス	1	日本アイ・ピー・エム	1	日本写真印刷	1	パナソニック	2
ピーズ	1	日置電機	1	三菱電機	1	三菱電機冷熱プラント	1
造形工学専攻							
イリア	1	インサイトアートワークス	1	宇部興産	1	大林組	1
岡村製作所	1	京都市	1	神戸市	1	三栄建築設計	1
ジェイ・アル東日本建築設計事務所	1	清水建設	1	船場	2	大和ライフネクスト	1
東亜建築事務所	1	都市再生機構	1	奈良市	1	西日本旅客鉄道	1
日建設計コンストラクション・マネジメント	1	阪急電鉄	1	プランテック総合計画事務所	1	平成建設	2
文部科学省	1	☆京都工芸繊維大学	1				
デザイン科学専攻							
エルエステイ	1	カヤック	1	キーエンス	1	システムグラフィ	1
スガツネ工業	1	タカスタンダード	1	タカラトミー	1	凸版印刷	2
ナカバヤシ	1	日本メナード化粧品	1	ノリタケカンパニーリミテド	1	富士フィルム	1
三菱電機	1	宮崎木材工業	1	リンケイジアジャパン	1		
建築設計学専攻							
浅井謙建築研究所	1	梓設計	1	石本建築事務所	1	国土交通省大阪航空局	1
清水建設	1	住友林業	1	竹中工務店	2	日本設計	1
松田平田設計	1						
先端ファイブ科学専攻							
IHI	1	ウィル	1	F・O・インターナショナル	1	栗本鐵工所	1
シーメンス・ジャパン	1	スズキ	1	セーレン	1	積水化学工業	1
帝人フロンティア	1	ディスコ	1	東洋紡	1	都市再生機構	1
日阪製作所	1	藤商事	1	マツダ	1	三菱化学	1
三菱樹脂	1	三菱電機	1	ヤマハ	1	横浜ゴム	1
(既職) 平和化学工業所	1	(既職) 中国煙草日本	1	☆京都工芸繊維大学	3		
バイオベースマテリアル学専攻							
アシックス	1	綾羽工業	1	岩谷産業	1	カケンテストセンター	1
グンゼ	1	KBセーレン	1	サンスター技研	1	三洋化成工業	1
ゼブラ	1	タカラベルモント	1	東洋インキ SC ホールディングス	1	東リ	1
東レ	1	凸版印刷	1	日本品質保証機構	1	日本ペイントホールディングス	1
ピアス	1	松風	1	三ツ星ベルト	1	横浜ゴム	1
YKK	1						

大学院工芸科学研究科博士後期課程

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
生命物質科学専攻							
大阪大学	1	京都市教員	1	堺市	1	ハノイ医科大学	1
ワイエムシ	1	(既職) 大阪観光大学	1	(既職) 科研製薬	1	(既職) 環境衛生薬品	1
(既職) 倉敷紡績	1	(既職) 新日鉄住金	1	(既職) タイセル	1	(既職) 武田薬品工業	1
(既職) プリヂェストン	1	(既職) マツイカガク	1				
設計工学専攻							
アイセイハード	1	パナソニック エコソリューションズ社	1	兵庫県警察	1	三菱電機	1
(既職) 京都大学	1						
造形科学専攻							
吉林大学	1	三幸社	1	(既職) 京都嵯峨芸術大学	1	(既職) 堺塚山大学	1
先端ファイブ科学専攻							
大阪樹脂工業	1	京都工芸繊維大学	1	自営業	1	スーパー・コート	1
マツダ	1	(既職) 池坊華道会	1	(既職) UCHIDA	1	(既職) 大阪ガス	1
(既職) カトーテック	1	(既職) 京都府	1	(既職) 京都光華女子大学	1	(既職) 小松製煉	1
(既職) ミスノテクノクス	1	(既職) 千寿製薬	1	(既職) 蘇生会総合病院	1	(既職) ソリトン	1
(既職) 田勇機業	1	(既職) 東雄技研	1	(既職) パーキンエルマー・ジャパン	1	(既職) 菱健	1
(既職) ひなや	1	(既職) マツダ	1	(既職) 丸八	1	(既職) 山田整形外科病院	1
(既職) 和光製作所	1						
バイオベースマテリアル学専攻							
(既職) 東レ	1	(既職) ラジャマンガラ大学	1				

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
シーボン	1	SCREEN ホールディングス	1	住友大阪セメント	1	住友電装	1
住江織物	1	積水化学工業	1	第一工業製業	2	ダイキン工業	1
ダイワエンジニアリング	1	タカラベルモント	1	ニチコン	1	日華化学	1
ニッタ	1	日本エイアンドエル	1	日本写真印刷	1	日本ゼオン	1
日本特殊陶業	1	日本ビラー工業	2	野間化学工業	1	野村興産	1
ノリタケカンパニーリミテド	1	フジクリン工業	1	ホシデン	1	マツイカガク	1
松風	1	三菱樹脂	1	明成化学工業	1	LIXIL	1
リコージャパン	1	ワイエムシィ	1	☆京都工芸繊維大学	1		
電子システム工学専攻							
アイシン精機	1	アンリツ	1	沖電気工業	1	オムロン	1
オムロンソーシャルソリューションズ	1	オムロンヘルスケア	1	関西電力	1	キヤノン	1
京セラ	1	京セラドキュメントソリューションズ	1	京都製作所	1	クボタ	1
コニカミノルタ	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1	ジェイテクト	1	島津製作所	2
住友重機械工業	1	星和電機	1	積水化学工業	1	積本チエイン	1
テクノマックス	1	東海旅客鉄道	1	東芝	1	豊田自動織機	1
西日本旅客鉄道	1	日揮	1	日新電機	1	日本電産	2
富士通テン	1	本田技研工業	1	マツタ	1	三菱電機	1
三菱電機エンジニアリング	1	村田機械	1	村田製作所	1	リコー	1
ローム	1	(既職) 京都大学	1	☆京都工芸繊維大学	1		
情報工学専攻							
アークレイ	1	イシダ	1	インフォコム	1	エヌ・ティ・ティ・スマートコネク	1
オークマ	1	カブコン	1	川重テクノロジー	1	関西電力	1
関電システムソリューションズ	1	北川鉄工所	1	京セラコミュニケーションシステム	3	グローリーシステムクリエイ	1
ケイ・オブティコム	2	SCREEN ホールディングス	2	住友電機情報システム	1	ダイナテック	1
大和総研	1	ディアンドアイ情報システム	1	TIS	1	東芝	1
日本写真印刷	1	日本電気	1	日本無線	1	パナソニック	2
ピクシフ	1	日立製作所	2	富士通	1	編集工学研究所	1
堀場製作所	1	本田技研工業	1	三菱電機	1	村田機械	1
LIXIL	1	ロックオン	1				
機械システム工学専攻							
IHI	1	今治造船	1	OGCTS	1	キヤノン	1
京セラドキュメントソリューションズ	1	クボタ	1	小松製作所	1	ジーエス・ユアサコーポレー	1
神鋼環境ソリューション	1	スズキ	1	住友電気工業	2	セイコーインスツル	1
積水化学工業	1	タカタ	1	タタ	1	デンソー	1
東海旅客鉄道	1	東芝	1	東洋ゴム工業	1	豊田自動織機	1
トヨタ自動車	1	二九精密機械工業	1	日新イオン機器	1	日本精工	1
パナソニック	4	パナソニックファクトリーソリューションズ	1	東レ	2	日立造船	3
不二越	1	富士重工業	1	富士ゼロックス	2	フジテック	1
本田技研工業	1	マキタ	2	三菱自動車エンジニアリング	1	三菱電機	1
三菱マテリアル	1	メニコン	1	ヤンマー	1	UACJ	1
リコー	1						
デザイン経営工学専攻							
アシックス	1	王子コンテナ	1	セーレン	1	千趣会	1
ソニー	1	竹中工務店	1	タカラベルモント	1	TOTO	1
日本アイ・ピー・エム・サービス	1	日本アイ・ピー・エム	1	日本写真印刷	1	パナソニック	2
ピーズ	1	日置電機	1	三菱電機	1	三菱電機冷熱プラント	1
造形工学専攻							
イリア	1	インサイトアートワークス	1	宇部興産	1	大林組	1
岡村製作所	1	京都市	1	神戸市	1	三栄建築設計	1
ジェイ・アル東日本建築設計事務所	1	清水建設	1	船場	2	大和ライフネクスト	1
東亜建築事務所	1	都市再生機構	1	奈良市	1	西日本旅客鉄道	1
日建設計コンストラクション・マネジメント	1	阪急電鉄	1	プランテック総合計画事務所	1	平成建設	2
文部科学省	1	☆京都工芸繊維大学	1				
デザイン科学専攻							
エルエステイ	1	カヤック	1	キーエンス	1	システムグラフィ	1
スガツネ工業	1	タカスタンダード	1	タカラトミー	1	凸版印刷	2
ナカバヤシ	1	日本メナード化粧品	1	ノリタケカンパニーリミテド	1	富士フィルム	1
三菱電機	1	宮崎木材工業	1	リンケイジアジャパン	1		
建築設計学専攻							
浅井謙建築研究所	1	梓設計	1	石本建築事務所	1	国土交通省大阪航空局	1
清水建設	1	住友林業	1	竹中工務店	2	日本設計	1
松田平田設計	1						
先端ファイブ科学専攻							
IHI	1	ウィル	1	F・O・インターナショナル	1	栗本鐵工所	1
シーメンス・ジャパン	1	スズキ	1	セーレン	1	積水化学工業	1
帝人フロンティア	1	ディスコ	1	東洋紡	1	都市再生機構	1
日阪製作所	1	藤商事	1	マツタ	1	三菱化学	1
三菱樹脂	1	三菱電機	1	ヤマハ	1	横浜ゴム	1
(既職) 平和化学工業所	1	(既職) 中国煙草日本	1	☆京都工芸繊維大学	3		
バイオベースマテリアル学専攻							
アシックス	1	綾羽工業	1	岩谷産業	1	カケンテストセンター	1
グンゼ	1	KBセーレン	1	サンスター技研	1	三洋化成工業	1
ゼブラ	1	タカラベルモント	1	東洋インキ SC ホールディングス	1	東リ	1
東レ	1	凸版印刷	1	日本品質保証機構	1	日本ペイントホールディングス	1
ピアス	1	松風	1	三ツ星ベルト	1	横浜ゴム	1
YKK	1						

大学院工芸科学研究科博士後期課程

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
生命物質科学専攻							
大阪大学	1	京都市教員	1	堺市	1	ハノイ医科大学	1
ワイエムシィ	1	(既職) 大阪観光大学	1	(既職) 科研製業	1	(既職) 環境衛生薬品	1
(既職) 倉敷紡績	1	(既職) 新日鉄住金	1	(既職) タイセル	1	(既職) 武田薬品工業	1
(既職) プリヂストン	1	(既職) マツイカガク	1				
設計工学専攻							
アイセイハード	1	パナソニック エコソリューションズ社	1	兵庫県警察	1	三菱電機	1
(既職) 京都大学	1						
造形科学専攻							
吉林大学	1	三幸社	1	(既職) 京都嵯峨芸術大学	1	(既職) 堺塚山大学	1
先端ファイブ科学専攻							
大阪樹脂工業	1	京都工芸繊維大学	1	自営業	1	スーパー・コート	1
マツタ	1	(既職) 池坊華道会	1	(既職) UCHIDA	1	(既職) 大阪ガス	1
(既職) カトーテック	1	(既職) 京都府	1	(既職) 京都光華女子大学	1	(既職) 小松製煉	1
(既職) ミスノテクノクス	1	(既職) 千寿製業	1	(既職) 蘇生会総合病院	1	(既職) ソリトン	1
(既職) 田勇機業	1	(既職) 東雄技研	1	(既職) パーキンエルマー・ジャパン	1	(既職) 菱健	1
(既職) ひなや	1	(既職) マツタ	1	(既職) 丸八	1	(既職) 山田整形外科病院	1
(既職) 和光製作所	1						
バイオベースマテリアル学専攻							
(既職) 東レ	1	(既職) ラジャマンガラ大学	1				

■ 年会費等の納入について

1. 会費の役割等について

- (1) 「KIT 同窓会」は、会員相互の交流と親睦を図り、もって母校の発展、学術文化及び産業の振興に寄与することを目的とし、会員の皆様方からの年会費のほか、寄付金（賛助金）等により、「KIT 同窓会」の充実・発展・運営・活動を実行して参ります。このことは本会のみならず、母校への強い支援になります。今後とも会員の皆様方のご支援・ご協力をお願いします。
- (2) 平成22年度から、「年額制」（3,000円）に加え「終身会費制」（30,000円）が導入されました。
- (3) 平成25年度から前納による割引制度は廃止されました。複数年の払込は、3,000円の整数倍をお振込下さい。
- (4) 新同窓会設立（平成18年度）以後に納入された年会費を終身会費額に至る一部としてカウントしております。
- (5) 工芸科学部を卒業された方で、入学時に賛助金と学生会費（20,000円）を納められた方は、卒業後10,000円の納入で終身会費納入となります。なお、VISA コールドカードを申し込まれた方は、1,000円の割引となり9,000円の納入で終身会費納入となります。
- (6) 長期間にわたり会費未納の会員の方は何卒会費納入にご協力のほどよろしくお願いいたします。

2. 会費納入を確認する方法

- (1) 終身会費制が導入されたことに伴う平成18年度以降の年会費納入済額については、直接事務局にお問い合わせください。
- (2) 平成27年度年会費及び終身会費が納入済の方は、払込取扱票の金額欄を*****で消しております。

3. 終身会費納入済の方

終身会費が納入済みの方は、氏名に「☆」マークを付しております。また、平成27年度以降の会費納入済の再掲載は省略しております。

4. 旧工芸学部同窓会（京都工大会）、旧繊維学部同窓会（衣笠同窓会）との関係につきまして

京都工大会は解散し、一方、衣笠同窓会は本同窓会の部会となりました。このため、KIT 同窓会へは新たに会費を納入して頂きますよう重ねてお願い申し上げます。衣笠同窓会の会費（終身会費）はKIT 同窓会の部会活動のためのものです。

5. KIT 同窓会年会費・前納会費納入者報告〔順不同・敬称略〕

平成27年3月20日までに、平成26年度以降の年会費を納入された方は下記のとおりです。

なお、紙面の関係上、京都工芸繊維大学の学部卒業後大学院を修了された方の専攻名及び修了年は省略しております。

記載漏れ等お気付きのことがございましたら事務局にご一報ください。調査のうえご連絡申し上げます。

同窓会滋賀支部設立について 設立總會のご案内

設立発起人代表 **中村成臣**
(繊維化学科 昭和43年卒)

衣笠同窓会と京都工大会が京都工芸繊維大学同窓会(略:KIT同窓会)として統合され、地域別の支部設立が各地で進められています。

滋賀県においても統合された「KIT同窓会滋賀支部」の設立をめざして、以下のように設立總會開催を準備しております。つきましては、滋賀県在住の同窓生の皆さまには積極的な支部活動を期待したく、設立總會への多くの方の参加をお願いする次第です。

KIT同窓会滋賀支部設立總會開催概要

日時:2015年11月22日(日) 10時~

場所:京都工芸繊維大学

60周年記念館 2階ホール

懇親会:總會後同一会場で

*詳細は後日参加者へ直接ご連絡いたします。

当日は、学園祭も開催中で、最近の大学構内や学園祭の変貌振りを楽しんでいただくこともできると期待しております。そこでお手数ですが、参加の可否を、参加可否如何にかかわらず、下記項目の回答として、ご連絡いただくようお願いいたします。方法は、E-mail、FAX、又は同封のハガキにてご連絡ください。

●ご連絡事項 連絡期限:8月31日迄に

1. 設立總會に 参加する。 参加しない。
2. ご氏名、学科、卒業年度
3. ご住所
4. 電話、FAX
5. E-mail アドレス

●連絡先

1. 〒520-0845 大津市若葉台5-13
増田 豊 宛(繊維化学科 昭和43年卒)
2. FAX:077-534-0365(増田宛)
3. E-mail:qrmy10598@gaia.eonet.ne.jp
(増田宛)

(お願い:ハガキの場合、切手を貼ってお出してください)

2015年版同窓会名簿が 発刊されました

総務委員長 **森本一成**
(電子工学科 昭和51年卒)

平素は同窓会活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この2月に2015年版同窓会名簿が発刊されました。

名簿を購入していただいた会員様、名簿賛助金へのご協力を下さった会員様並びに広告にご協力くださいました皆様にご協力に対し厚く御礼申し上げます。

今回の同窓会名簿は、実に12年ぶりの発刊となります。前回の名簿発刊から長期間が経過し、その整備が不十分となり、長らく会員相互の親睦・交流に支障をきたしておりましたが、今回の刊行により、会員の皆様が相互に連絡を取り合い親睦が深まる契機となり、今後の同窓会活動のさらなる充実、発展に繋がるものと期待されます。

なお、今後、名簿を活用される機会が増えることに備え、若干の予備を印刷しました。

名簿の購入を希望される方は、同窓会事務局へ代金5,000円を添えてお申込み下さい。申込入金を確認後、着払い(送料は、各自ご負担下さい。京都府内510円、京都府以外の近畿圏610円、他全国)にてお送りいたします。

代金振替口座(ゆうちょ銀行)

00960-3-224524

住所等の変更異動通知について

会員データの変更に伴う修正等がある場合は、氏名・卒業年・卒業学科等、訂正・変更がわかるように、下記何れかの方法でご連絡ください。

郵便の場合は、〒606-0956 京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1 京都工芸繊維大学同窓会事務局 宛へ

FAXの場合は、075-724-7232へ

E-mailの場合は、kit-obog@jim.kit.ac.jp又は、同窓会ホームページの「お問合わせ」フォームからご連絡下さい。

氏名・自宅住所・電話番号・メールアドレス・勤務先名・勤務先所在地・勤務先電話番号・その他の変更がある場合、同窓会事務局までご連絡下さい。

衣笠同窓会だより 平成27年度理事会・総会のご案内

衣笠同窓会 会長 三 好 明

卒業証明書等の申し込みについて

各種証明書の申込みは、郵送又は学務課窓口で受け付けています。

●郵送での申込み方法

以下の3点を同封し、封筒に「証明書発行願在中」と朱書きのうえ、郵送してください。

①証明書発行願

(以下の事項を記入してください)

- ・氏名(フリガナ)
- ・生年月日
- ・出身学部、課程・学科／出身研究科・専攻
- ・入学年月、卒業(修了)年月
- ・学籍番号(不明の場合省略可)
- ・必要な証明書の種類と部数(例：卒業証明書 和文1部)
- ・使用目的、提出先
- ・現住所、連絡先の電話番号・メールアドレス

②本人確認書類(運転免許証など)のコピー

③返信用封筒(送付先の住所・氏名を明記し、切手を貼ってください)

※申込方法の詳細及び「証明書発行願」様式は、大学 HP に掲載しています。

京都工芸繊維大学ホームページ

<http://www.kit.ac.jp/>

[トップページ<対象者別メニュー：卒業生の方<証明書の申込みについて]

●送付・問い合わせ先

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1

京都工芸繊維大学

学務課 学務調査係 宛

電話：075-724-7117

平成27年度衣笠同窓会理事会・総会を下記の通り開催いたします。皆様におかれましてはご多忙かと存じますが、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日 時 平成27年6月27日(出) 午後2時から

場 所 ウエスティン都ホテル京都

- 議 題
1. 平成26年度事業報告及び決算報告
 2. 平成26年度会計監査報告
 3. 平成27年度事業計画及び予算案
 4. 役員改選
 5. その他

衣笠同窓会の理事会・総会のみにご出席される方は、大変お手数ですが、次の所までご連絡くださいませ。電話：075-724-7776 (森)

なお、当日は同ホテルにて京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会) の総会と懇親会が開催されます (総会は午後4時から、懇親会は午後6時からの予定)。

KIT 同窓会の総会・懇親会に御出席される方は必ず同封の葉書にてご連絡下さい。

■ 広報委員

理 事	清水 孝一	養蚕学科	昭和26年卒
理 事	遠藤 宏	養蚕学科	昭和34年卒
理 事	木瀬 洋	機織工芸学科	昭和41年卒
会 員	高畑 哲	養蚕学科	昭和49年卒
理 事	杉本 一郎	繊維工学科	昭和49年卒 副会長・広報委員会委員長
理 事	澤野井裕文	繊維工学科	昭和49年卒
理 事	森本 一成	電子工学科	昭和51年卒 京都工芸繊維大学副学長
理 事	八田 正隆	蚕糸生物学科	昭和59年卒
事務局	志賀 均	専務理事	
事務局	荒木 克己	KITビューロー	
事務局	藤井ひろみ	事務局員	

2015

京都工芸繊維大学同窓会 KIT同窓会誌 No.9

平成27年4月発行

発行所: 京都工芸繊維大学同窓会
(略称「KIT同窓会」)

〒606-0956 京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1

Tel/Fax: (075)724-7232

e-mail: kit-obog@jim.kit.ac.jp

URL: <http://www.kit-obog.com>

KITビューローTel: (075)724-7972

振替口座: 00960-3-224524

印刷所: (株)北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

Tel: (075)791-6125

Fax: (075)791-7290